

平成 26 年度

FD 活動・研究報告書



岡崎女子大学
岡崎女子短期大学

平成26年度 FD活動・研究報告書		ページ
1. はじめに		
1-1	FD活動の今年度の総括について	2
2. 大学・短大FD委員会関係		
2-1	平成26年度大学・短大FD委員会実施一覧	5
3. 授業関係		
	平成26年度前期	
3-1	学生による授業アンケートの実施について(お願い)	7
3-2	授業アンケート記入用紙(前期)	8
3-3	授業アンケート実施一覧	9
3-4	授業アンケート実施結果(大学 全科目)	16
3-5	授業アンケート実施結果(短大 全科目)	17
3-6	授業アンケートの結果報告及び自己点検報告書の提出について	18
3-7	授業アンケートによる自己点検報告書	19
	平成26年度後期	
3-8	学生による授業アンケートの実施について(お願い)	20
3-9	授業アンケート記入用紙(後期)	21
3-10	授業アンケート実施一覧	23
3-11	授業アンケート実施結果(大学 全科目)	28
3-12	授業アンケート実施結果(短大 全科目)	29
	学修状況についてのアンケート	
3-13	アンケート記入用紙	30
3-14	実施結果(全体)	32
4. FD研修会関係		
4-1	平成26年度「FD研修会」実施案	38
4-2	第1回FD・SD合同研修会レジメ	39
4-3	第1回FD・SD合同研修会グループワークまとめ	40
4-4	第2回FD・SD合同研修会レジメ	43
4-5	第2回FD・SD合同研修会に対する教職員の感想	44
4-6	第3回FD研修会レジメ	46
5. 授業公開関係		
5-1	平成26年度「授業公開」実施計画	48
5-2	平成26年度授業公開実施について	49
5-3	授業公開コメント用紙	51
5-4	授業公開自己評価用紙	52
5-5	授業公開実施結果	53
6. おわりに		
6-1	FD活動の今年度の総括と次年度の課題について	54
7. 研究資料		
7-1	岡崎女子大学・岡崎女子短期大学におけるFDの展望について	58
7-2	学修と学習について	64

1. はじめに ～FD活動の今年度の総括について～

FD委員会

本学では、大学・短大それぞれの建学の精神に則り全学の3つのポリシーを定め、効果的かつ実質的な教育・研究活動及び地域貢献活動に繋げるため、教育等に関する様々なデータを分析し、教育・研究内容及び教育方法の改善・向上を図るFD委員会を設置している。FD委員会において企画した学内外の講師による「研修会」を行っている。また、「授業公開」、「授業アンケート」の実施とともに各教員が自己点検・評価することで、教育研究活動を一層向上させるよう努めている。

FD委員会は、大学と短大の合同組織であり、副学長、学部長、事務局長、教職員で構成されており、自己点検・評価委員会、教務委員会、その他関係部署との連携のもと、全学で教育目的の達成のために情報の共有や業務の連携を図っている。また、FD委員会の主導により、「授業アンケート」「授業公開」「FD研修会」を実施し、教育改善に取り組んでいる。詳細は、以下のとおりである。

学生による「授業アンケート」は、前期、後期ともに授業の13～15週の期間中に、すべての科目を対象として実施した（但し、ゼミ及び受講生10名未満の科目は除く）。アンケートは、20項目の質問（5段階のリッカートスケール）と授業に関する感想や意見の自由記述となっている。なお、平成26年度に授業アンケートの内容の改善を図り、当年度後期より新しい内容で実施した。設問項目は、①学生自身について、②授業について、③授業方法、教員について、④教育効果について、を下位領域とする19項目であり、自由記述として①授業で良かったと思う点、②改善した方が良いと思う点、③教室・校舎等の環境改善への要望、となっている。専任教員の担当授業におけるアンケート実施度は高く、ほぼ全員が実施している。学期の終了後、集計結果データが授業担当教員に返却され、各教員が「授業アンケートの結果報告及び自己点検報告書」を作成し、教務課に提出する。当報告書には、①授業アンケートによる自己点検結果、②授業アンケートの結果で優れていた点、③授業アンケートの結果で改善すべき点を記入事項とし、各教員が教育目的の達成状況を自己点検するとともに、今後の授業改善方法の検討に活かしている。また、FD委員会において、実施状況や結果が報告され、大学全体としての課題や改善点について検討し、FD研修会や授業改善のための勉強会のテーマとしてつなげている。

「授業公開」の実施期間は、12月中の1か月間としている。平成25年度は任意実施であったが、平成26年度から常勤・非常勤を含めて原則全員実施へと強化している。授業公開は、継続的に行うことにより、日常的な授業におけるその内容・方法について教職員をはじめ、その他の人々による情報交換を行い、授業改善に資することを目的として実施している。また、教育内容の充実や教員としての教育力向上を目指すねらいもある。実施者は、事前に「授業公開実施届」を教務課に提出し、受講する学生にも事前に伝達する。参観者は、

● 1－1 はじめに

実施者に参観希望を事前に連絡し、参観後は「授業公開コメント用紙」に意見や感想等を記入し、教務課に提出する。実施者は、教務課から上記のコメント用紙を受け取り、その内容をふまえ「授業公開自己評価用紙」に改善点等を記述し、教務課に提出する。このような取り組みを通して、各教員が自らの授業を公開し、中立的・客観的にピアレビューを受けることにより、授業運営の改善に活かしている。

「FD研修会」について今年度は新たに職員対象のSD委員会とも連携し、教職員両方が対象の研修会の形で実施することを試みている。建学の精神から3ポリシー、カリキュラムから教育内容・方法及び学修指導等の改善につながる構造の共通理解をもとに、各科目の授業内容の検証を授業アンケートから、学生生活全般の検証を学生満足度アンケートから行うことが可能となるので、今後はIRを設置するなどして、調査結果の分析・評価を各学科や関係部署に伝達し、授業運営や学修環境、学生の理解度等の具体的な課題を共有し解決していく体制づくりの必要性を確認しあっている。

上記の「授業アンケート」「授業公開」「FD研修会」の実施については、FD委員会の中のワーキンググループが中心となって企画し、FD委員会での検討を得て教授会、学部・学科会議で周知され全学的に実施されている。また、実施された取り組みの結果は、授業担当者及び関係部署に適宜フィードバックされ、情報の共有化とともに共通認識の醸成を図っている。

2. 大学・短大F D委員会関係

平成26年度は計10回委員会を開催した。

実施日及び議題を次頁に掲載する。

● 2－1 平成26年度大学・短大FD委員会実施一覧

平成26年度大学・短大FD委員会実施一覧

	実施日	主な議題
第1回	H.26.5.20	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度FD方針 ・3ワーキング・グループ（以下3WG）の担当について ・授業アンケート結果の活用について ・平成25年度第2回FD研修会結果報告について
第2回	H26.6.18	<ul style="list-style-type: none"> ・FDの課題の全容と本学が今後取り組む必要のあるFD課題 ・3WGの今年度の取り組み方向・日程について
第3回	H26.7.23	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度前期授業アンケートの結果分析と結果の活用の仕方について ・平成25年度後期授業アンケート結果の取扱いについて ・新アンケートについて ・3WGの取り組みについて
第4回	H26.8.20	<ul style="list-style-type: none"> ・3WGの取り組みについて（進捗状況報告）
第5回	H26.9.24	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回FD研修会（FD・SD合同研修）の実施概略について ・平成26年度後期授業アンケートの実施案について ・平成26年度授業公開の実施方法について
第6回	H26.10.22	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度後期授業アンケート用紙について ・平成26年度第1回FD・SD合同研修の実施結果について ・平成26年度授業公開実施スケジュールについて
第7回	H26.11.19	<ul style="list-style-type: none"> ・「学修状況についてのアンケート」集計結果について ・教室施設・校舎環境に関するアンケート実施案について ・平成26年度第2回FD・SD合同研修会案について ・平成27年度FD関連活動予算について
第8回	H26.12.17	<ul style="list-style-type: none"> ・教室施設・校舎環境に関するアンケート実施結果について ・第2回FD・SD合同研修会実施結果について ・平成26年度授業公開について（進捗状況報告）
第9回	H27.1.21	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度後期授業アンケート実施結果集約について ・第3回FD研修実施案について ・平成26年度授業公開実施結果集約について
第10回	H27.2.25	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度「FD活動・研究報告書」について
第11回	H27.3.25	<ul style="list-style-type: none"> ・未実施

3. 授業アンケート関係

平成26年度は前期・後期の2度授業アンケートを実施した。

前期に実施した内容とその結果を示す資料を次頁以降に掲載する。

また、授業アンケート実施方法とその内容について、ワーキンググループ及びFD委員会で検討し、改善を試みた。後期に実施した内容とその結果を示す資料を続けて掲載する。

さらに、大学・短大としてよりよい学修環境を整備する目的で学修状況に関するアンケートを行ったので、実施した内容とその結果を掲載する。

● 3 - 1 平成26年度前期 学生による授業アンケート実施について（お願い）

平成26年7月1日

授業担当教員 各位

岡崎女子大学

FD委員会委員長

小野 隆

「学生による授業アンケート」（前期）の実施について（お願い）

先生方におかれましては、日頃より本学学生の学力向上のためにご尽力いただき、誠にありがとうございます。下記要領により「学生による授業アンケート」を実施させていただきたいと思いますので、ご理解ご協力くださいますようお願い申し上げます。

記

1 実施目的

本学教員が自分の授業内容および授業方法を改善するために、受講生の声を聞くことを目的として実施します。

2 実施期間

前期授業の第13週から第15週の期間でお願いします。

3 実施する授業

全ての授業科目（全コマ）で実施してください。
ただし、受講者10名未満の授業科目は除きます。

4 実施方法

- ・ 必要枚数分のアンケート用紙は先生方のメールボックスに配付させていただきます。
- ・ 授業時間内にアンケート回収に協力してもらえる学生を選出ください。
- ・ 回収協力の学生選出後、アンケート用紙（マークカード）を配付してください。
- ・ アンケート回収協力の学生に回収用の封筒を渡し、記入後のアンケートを回収させてください。（各先生は回収作業には関与しないでください）
- ・ 回収したアンケート用紙は、未使用のアンケート用紙も含めて封筒に入れ、回収協力学生に教務課まで、授業後すみやかに戻すようご指示ください。（教員自身が回収・返却をしないことを原則としています。）

5 アンケート集計結果による自己点検報告書の提出

アンケートの集計は業者に委託します。後日、その集計結果をお届けしますので、自己点検評価をし、後日配付の「授業アンケートによる自己点検報告書」を提出してください。

問い合わせ：〒444-0015

岡崎市中町1丁目8番地4

岡崎女子大学

岡崎女子短期大学 教務課

TEL(0564)28-3315

FAX(0564)28-3310

学生による授業アンケート

実施日 年 月 日

このアンケートは学生の視点を活用して、本学の授業の改善を図るためのものです。

- 調査は無記名で行い、個々の回答内容について公開されることはありません。
- 回答内容が成績に影響することはありません。
- 学生それぞれが、大学を構成する重要な一員として、本学の教育をより良いものにするという意識のもとに、率直に回答してください。
- 回答内容（数値データ）に関しては、冊子にまとめ、授業担当者だけでなく、学生や教職員が学修支援センターで閲覧できるようにするとともに、教育環境を改善する上での大切な資料とします。

1. 授業科目・教員氏名・あなたの学年クラスを記入してください。

授業科目		
教員氏名		
あなたの学年クラス	年	クラス

〔記入上の注意事項〕

1. 記入には、かならずHBの鉛筆を使用してください。
2. マークの記入は、下記の「良いマーク」例に従ってください。
良いマーク ● 悪いマーク     
3. 訂正はプラスチック消しゴムできれいに消して、くずは残さないようにしてください。
4. 紙面は汚したり、折り曲げたりしないでください。

2. 1から21の設問について、5段階評価でもっとも適切な番号にHBの鉛筆でマークして答えてください。

設問項目	5 とてもそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 そう思わ ない	1 全くそう 思わない
1. あなたは、シラバスを事前に読んで授業に臨みましたか。	⑤	④	③	②	①
2. あなたは、授業に十分出席しましたか。	⑤	④	③	②	①
3. あなたは、この授業に関する自己学習（予習・復習など）に努めましたか。	⑤	④	③	②	①
4. あなたは、授業中のマナー（私語、居眠り、携帯電話、途中入退室、化粧等）を守ることができましたか。	⑤	④	③	②	①
5. あなたは、この授業に意欲的に取り組みましたか。	⑤	④	③	②	①
6. あなたは、この授業の到達目標を達成することができましたか。	⑤	④	③	②	①
7. シラバスや教員の事前の説明は分かりやすいものでしたか。	⑤	④	③	②	①
8. この授業の目的や到達目標は明確でしたか。	⑤	④	③	②	①
9. この授業で使用された教材（教科書、資料、材料等）は適切でしたか。	⑤	④	③	②	①
10. 黒板、ビデオ、プレゼンテーションソフト（パワーポイント等）などの使い方は適切でしたか。	⑤	④	③	②	①
11. 教員の話し方（声の大きさ、話す速さ、メリハリ等）は適切でしたか。	⑤	④	③	②	①
12. 学生の理解度を確認するなど、授業を進めるスピードが適切に保たれていましたか。	⑤	④	③	②	①
13. 課題の内容や量は適切でしたか。	⑤	④	③	②	①
14. 教員は、質問や発言を促そうとしていましたか。	⑤	④	③	②	①
15. 教員は、学生の発言や質問に適切に対応していましたか。	⑤	④	③	②	①
16. 教員に、授業への熱意が感じられましたか。	⑤	④	③	②	①
17. 教員は、授業にふさわしくない学生の行動等に適切に対応していましたか。	⑤	④	③	②	①
18. 教員は、すべての学生に公正な態度で接していましたか。	⑤	④	③	②	①
19. 教員に、学生に対する不適切な言動など人権に関わる態度が見られましたか。	⑤	④	③	②	①
20. あなたは、この授業の受講を後輩にも勧めたいですか。	⑤	④	③	②	①
21. 自由設問（教員の指示に従って回答してください。）	⑤	④	③	②	①

3. 授業に関する感想や意見を自由に書いてください。

岡崎女子大学

8

● 3-3 平成26年度前期 授業アンケート実施一覧

専任教員					
No.	氏名	曜日	クラス	科目名	履修者数
1	長柄孝彦	金3	2S	声楽Ⅰ	14
		金5	1A	パフォーマンスボディⅠ	44
2	小宮富子	月2	1S	英語総合（基礎）	22
		水1	1S	基礎演習	21
		金1	2ST	英語総合（中級）	8
3	矢藤誠慈郎	水1	1EG	保育原理	94
		水2	1AB	保育原理	88
		木1	1ST	保育原理	86
4	大岩みちの	月1	1G	保育内容総論	47
		月2	1E	保育内容総論	48
		火5	1ST	子ども学総論（後半）	86
		水1	1T	保育内容総論	43
		水2	1S	保育内容総論	43
		木2	2ST	保育の計画と評価	63
		金1	1ST	子ども学総論（前半）	86
5	赤羽根有里子	火1	2A	児童文化演習Ⅰ	46
		火2	1S	保育内容演習「言葉」Ⅰ	43
		火3	1ST・2ST	日本文学	67
		水2	1T	保育内容演習「言葉」Ⅰ	43
		木4	1C	保育内容演習（言葉）	44
		金2	1A～D	日本語表現	44
6	上田信道	火1	1B	保育内容演習（言葉）	44
		火2	2C	児童文化演習Ⅰ	49
		火3	1ST・2ST	日本文学	67
		木1	1G	保育内容演習（言葉）	46
		金4	1ST	文章表現法	43
7	小川宜子	火1	1S	基礎音楽Ⅰ	43
		火2	1T	基礎音楽Ⅰ	44
		金1	1E	基礎音楽Ⅰ	48
		金2	1G	基礎音楽Ⅰ	46
8	小野隆	月4	2T	体育実技Ⅰ	30
		月5	2S	体育実技Ⅰ	33
		火1	3E	保育内容演習（健康）	36
		火2	1D	保育内容演習（健康）	43
		水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	14
		木1	3G	保育内容演習（健康）	37

● 3-3 平成26年度前期 授業アンケート実施一覧

9	小 原 倫 子	月1	1ST	子ども理解と評価	86
		月2	2B	発達と教育の心理学演習	51
		月4	1ST	教育と発達の心理学 I	86
		火5	1ST	子ども学総論（後半）	86
		水1	3G	保育カウンセリング	36
		金1	1ST	子ども学総論（前半）	86
		金4	2A	発達と教育の心理学演習	46
10	岸 本 美 紀	月1	2T	教育実習指導 I	30
		月2	2C	保育内容演習（人間関係）	53
		月4	2S	教育実習指導 I	33
		火1	2B	保育内容演習（人間関係）	52
		火2	2D	保育内容演習（人間関係）	50
		水1	2A	保育内容演習（人間関係）	49
11	北 浦 恒 人	火1	1S	基礎音楽 I	43
		火2	1T	基礎音楽 I	44
		木1	1C	基礎音楽 I	43
		木3	2S	基礎音楽Ⅲ	33
		木4	2T	基礎音楽Ⅲ	29
12	権 絃 珠	水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	12
		木1	2ST	相談援助 I	63
		金1・2	2D	保育実習指導 I（施設）	50
13	佐 善 圭	月3	1S	造形 I	43
		水1	2S	造形Ⅲ	31
		水2	2T	造形Ⅲ	30
		木1	2AB	保育内容演習（表現）	102
		木2	2CD	保育内容演習（表現）	101
		木3	1T	造形 I	43
14	白 石 さ や	火5	1ST	子ども学総論（後半）	86
		金1	1ST	子ども学総論（前半）	86
		金2	1T	基礎演習	22
		金3	1A～D	人間と環境	22
15	白 垣 潤	火2	2G	障害児保育 I	44
		水1	2B	障害児保育 I	51
		水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	12
		金2	2E	障害児保育 I	45
16	鈴 木 方 子	月2	1T	乳児保育 I	43
		水1	2G	教育実習（事前・事後指導を含む。）	47
		水2	2E	教育実習（事前・事後指導を含む。）	45
		木4	1S	乳児保育 I	43
		金1	1G	乳児保育 I	46

● 3-3 平成26年度前期 授業アンケート実施一覧

9	小 原 倫 子	月1	1ST	子ども理解と評価	86
		月2	2B	発達と教育の心理学演習	51
		月4	1ST	教育と発達の心理学Ⅰ	86
		火5	1ST	子ども学総論（後半）	86
		水1	3G	保育カウンセリング	36
		金1	1ST	子ども学総論（前半）	86
		金4	2A	発達と教育の心理学演習	46
10	岸 本 美 紀	月1	2T	教育実習指導Ⅰ	30
		月2	2C	保育内容演習（人間関係）	53
		月4	2S	教育実習指導Ⅰ	33
		火1	2B	保育内容演習（人間関係）	52
		火2	2D	保育内容演習（人間関係）	50
		水1	2A	保育内容演習（人間関係）	49
11	北 浦 恒 人	火1	1S	基礎音楽Ⅰ	43
		火2	1T	基礎音楽Ⅰ	44
		木1	1C	基礎音楽Ⅰ	43
		木3	2S	基礎音楽Ⅲ	33
		木4	2T	基礎音楽Ⅲ	29
12	権 絃 珠	水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	12
		木1	2ST	相談援助Ⅰ	63
		金1・2	2D	保育実習指導Ⅰ（施設）	50
13	佐 善 圭	月3	1S	造形Ⅰ	43
		水1	2S	造形Ⅲ	31
		水2	2T	造形Ⅲ	30
		木1	2AB	保育内容演習（表現）	102
		木2	2CD	保育内容演習（表現）	101
		木3	1T	造形Ⅰ	43
14	白 石 さ や	火5	1ST	子ども学総論（後半）	86
		金1	1ST	子ども学総論（前半）	86
		金2	1T	基礎演習	22
		金3	1A～D	人間と環境	22
15	白 垣 潤	火2	2G	障害児保育Ⅰ	44
		水1	2B	障害児保育Ⅰ	51
		水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	12
		金2	2E	障害児保育Ⅰ	45
16	鈴 木 方 子	月2	1T	乳児保育Ⅰ	43
		水1	2G	教育実習（事前・事後指導を含む。）	47
		水2	2E	教育実習（事前・事後指導を含む。）	45
		木4	1S	乳児保育Ⅰ	43
		金1	1G	乳児保育Ⅰ	46

● 3-3 平成26年度前期 授業アンケート実施一覧

26	鈴木穂波	火1	1G	日本語表現	46
		火4	1C	基礎演習Ⅱ	43
		水1	1A	保育内容演習（言葉）	44
		水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	13
		木3	2D	児童文化演習Ⅰ	51
		金2	1E	保育内容演習（言葉）	48
		金4	2B	児童文化演習Ⅰ	54
27	妹尾美智子	月2	2A	幼児音楽Ⅰ（a）	32
		月3	2B	幼児音楽Ⅰ（a）	42
		月5	2CD	幼児音楽Ⅰ（b）	38
		火3	1D	基礎音楽Ⅰ	42
		火4	1B	基礎音楽Ⅰ	44
		火5	2AB	幼児音楽Ⅰ（b）	26
		水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	13
28	滝沢ほだか	火3	1D	基礎音楽Ⅰ	42
		火4	1B	基礎音楽Ⅰ	44
		火5	2AB	幼児音楽Ⅰ（b）	26
		水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	12
		木1	2AB	保育内容演習（表現）	102
		木2	2CD	保育内容演習（表現）	101
		金2	3EG	保育内容演習（表現）	74
29	戸田順子	水1	2CD	社会的養護	101
		水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	12
		木2	2EG	社会的養護	90
		金4	1CD	社会福祉	85
		土1	1EG	社会福祉	94
30	中村治人	火3	2CD	教育方法論	104
		火4	2AB	教育方法論	101
		水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	9
		木1	1AB	保育者論	88
		木3	1CD	保育者論	87
		木4	1A	基礎演習Ⅱ	44
31	野田美樹	月1	1C	教育実習（事前・事後指導を含む。）	43
		月2	1C	保育内容総論	45
		月3	1A	保育内容総論	44
		水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	13
		木4	1D	教育実習（事前・事後指導を含む。）	42
		金1	3G	保育実習指導Ⅰ・Ⅱ	39
		金2	2G	基礎演習Ⅲ	44

● 3-3 平成26年度前期 授業アンケート実施一覧

32	平 尾 憲 嗣	月1	2D	幼児音楽Ⅰ (a)	34
		月2	2T	声乐Ⅰ	15
		月4	2C	幼児音楽Ⅰ (a)	32
		火1	1S	基礎音楽Ⅰ	43
		火2	1T	基礎音楽Ⅰ	44
		水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	15
33	古 川 芳 子	火2	2ST	ジェンダー論	62
		金1	1A～D	女性の自立と人権	42
		金2	1A～D	女性の自立と人権	46
34	真 木 弘	火1	2E	幼児体育Ⅰ	45
		火2	3G	健康とスポーツ (実技)	38
		水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	14
35	丸 山 笑里佳	月1	2G	発達と教育の心理学演習	45
		月2	2E	発達と教育の心理学演習	44
		水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	13
		木2	3E	保育カウンセリング	35
		木4	2C	発達と教育の心理学演習	53
		金1	2E	基礎演習Ⅲ	46
		金2	1T	基礎演習	21
		金4	1B	基礎演習Ⅱ	44
36	山 下 晋	火1	1C	保育内容演習 (健康)	45
		火2	1A	保育内容演習 (健康)	45
		火4	2C	健康とスポーツ (実技)	50
		水1	1B	保育内容演習 (健康)	44
		水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	14
		木2	1D	幼児体育Ⅰ	42
		木3	1B	幼児体育Ⅰ	45
		木4	2B	健康とスポーツ (実技)	51
37	山 田 悠 莉	月1	2E	パフォーマンスボディ	34
		月2	2G	パフォーマンスボディ	38
		水1	1S	基礎演習	22
		水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	15
		木1	2AB	保育内容演習 (表現)	102
		木2	2CD	保育内容演習 (表現)	101
		木4	1B	パフォーマンスボディⅠ	44
		金2	3EG	保育内容演習 (表現)	74
		金5	1C	パフォーマンスボディⅠ	43

●3-3 平成26年度前期 授業アンケート実施一覧

38	横 田 典 子	火2	1B	基礎造形	43
		火3	1C	基礎造形	43
		火4	1D	基礎造形	42
		水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	15
		木1	2C	幼児造形Ⅱ	49
		木3	2B	幼児造形Ⅱ	51
		木4	2D	幼児造形Ⅱ	50
		金2	3EG	保育内容演習（表現）	74
39	米 窪 洋 介	月2	1A	基礎造形	44
		火1	1E	基礎造形	47
		火2	1G	基礎造形	46
		火3	2A	幼児造形Ⅱ	49
		水2	2A～D・3EG	子どもの研究Ⅱ	14
		土1	2G	幼児造形Ⅱ	45
		土2	2E	幼児造形Ⅱ	45
40	市 原 潔	火1	2M	情報処理論	18
		火2	1M	情報基礎演習Ⅰ	33
41	河 合 晋	月1	1M	簿記原理Ⅰ	33
		月2	2M	簿記実務Ⅰ	15
		月4	1MP	簿記検定講座Ⅰ	40
		火3	2M	経営実務演習Ⅲ	35
		木4	1P	簿記原理Ⅰ	29
42	黒 野 伸 子	火1	1MP	診療報酬請求論Ⅰ	39
		水1	2M	診療報酬請求実務Ⅱ	27
		木1	1MP	医療保障制度概論	42
		金3	1MP	医学一般	48
		金4	2M	医療事務総論	27
43	笹 瀬 佐代子	火4	1MP	キャリアデザインⅠ	62
		火5	1MP	ホスピタリティーとマナーⅠ	60

● 3 - 3 平成26年度前期 授業アンケート実施一覧

44	竹 本 行 雄	木1	1E	日本語表現	48
		金1	1A～D	日本語表現	43
		金2	1MP	日本語表現	62
45	日野水 憲	月2	1S	英語総合（基礎）	21
		火4	1T	英語総合（基礎）	21
		木2	2M	外国語コミュニケーション I	18
		金4	1M	英語 I	22
46	祝 田 学	月3	1MP	マーケティング論	37
		火3	2M	経営実務演習Ⅲ	35
		火4	2M	経営実務演習Ⅳ	35
		水1	1MP	マネジメント論	62
		木4	2M	社会調査法演習 I	10
47	町 田 由 徳	火3	1MP	基礎デザイン論	40
		火4	2M	経営実務演習Ⅳ	35
		水2	1MP	生活用品デザイン	37

● 3-4 平成26年度前期 授業アンケート実施結果（大学 全科目）

学生による授業アンケート

2014年度 前期

授業科目名: 全科目

クラス:

担当教員名:

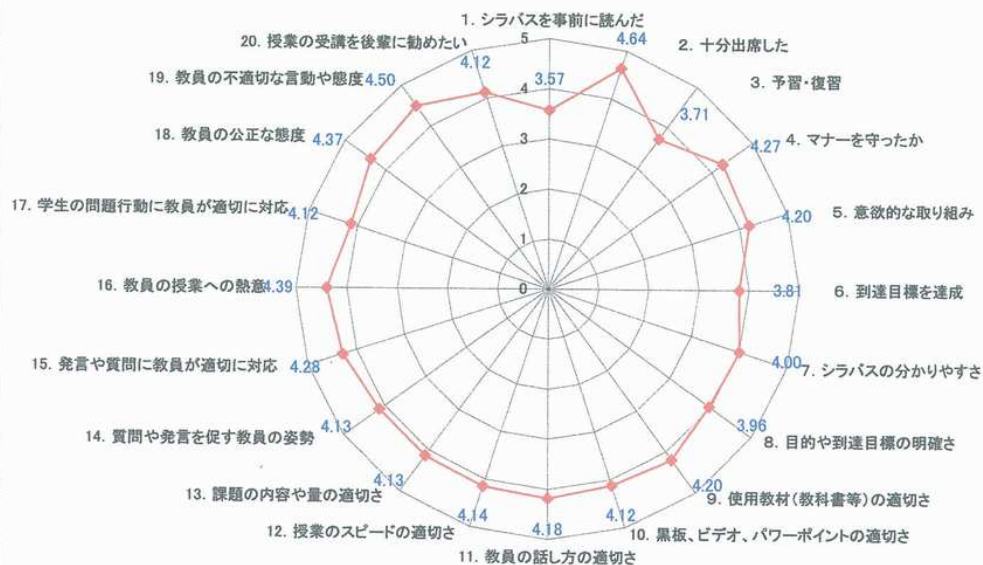
受講者数: 2663 人

回答者数: 2565 人

設問項目	5 とても 思う	4 そう 思う	3 どちら とも いえ ない	2 そう 思わ ない	1 全く 思わ ない	無 回 答	平均 値
1. あなたは、シラバスを事前に読んで授業に臨みましたか。	17.6	35.3	36.5	7.3	3.3	0.0	3.57
2. あなたは、授業に十分出席しましたか。	69.8	24.6	4.8	0.7	0.0	0.0	4.64
3. あなたは、この授業に関する自己学習(予習・復習など)に努めましたか。	22.8	36.0	32.1	7.0	1.8	0.3	3.71
4. あなたは、授業中のマナー(私語、居眠り、携帯電話、途中入退室、化粧等)を守ることができましたか。	46.0	37.4	14.2	2.1	0.2	0.2	4.27
5. あなたは、この授業に意欲的に取り組みましたか。	40.3	41.5	16.2	1.6	0.3	0.2	4.20
6. あなたは、この授業の到達目標を達成することができましたか。	22.3	39.6	35.1	2.5	0.5	0.0	3.81
7. シラバスや教員の事前の説明は分かりやすいものでしたか。	32.7	40.2	22.6	3.4	1.0	0.1	4.00
8. この授業の目的や到達目標は明確でしたか。	29.8	40.3	26.3	2.7	0.6	0.3	3.96
9. この授業で使用された教材(教科書、資料、材料等)は適切でしたか。	41.4	40.1	15.6	2.4	0.5	0.1	4.20
10. 黒板、ビデオ、プレゼンテーションソフト(パワーポイント等)などの使い方は適切でしたか。	39.1	38.1	18.8	3.0	0.9	0.2	4.12
11. 教員の話し方(声の大きさ、話す速さ、メリハリ等)は適切でしたか。	45.0	36.0	12.5	5.2	1.3	0.0	4.18
12. 学生の理解度を確認するなど、授業を進めるスピードが適切に保たれていましたか。	40.8	38.4	16.1	3.8	0.9	0.0	4.14
13. 課題の内容や量は適切でしたか。	39.0	39.2	18.4	2.3	0.9	0.2	4.13
14. 教員は、質問や発言を促そうとしていましたか。	39.9	36.8	19.5	3.0	0.6	0.2	4.13
15. 教員は、学生の発言や質問に適切に対応していましたか。	46.4	38.4	12.8	1.7	0.6	0.1	4.28
16. 教員に、授業への熱意が感じられましたか。	50.9	38.4	9.5	1.0	0.2	0.1	4.39
17. 教員は、授業にふさわしくない学生の行動等に適切に対応していましたか。	40.0	35.8	21.8	1.3	1.1	0.1	4.12
18. 教員は、すべての学生に公正な態度で接していましたか。	52.6	35.6	9.4	1.1	1.4	0.1	4.37
19. 教員に、学生に対する不適切な言動など人権に関わる態度が見られましたか。	2.3	4.2	8.1	12.2	72.9	0.2	4.50
20. あなたは、この授業の受講を後輩にも勧めたいですか。	42.7	32.0	20.5	3.4	1.1	0.3	4.12
21. 自由設問(教員の指示に従って回答してください。)	3.8	4.4	1.6	0.1	0.0	90.0	4.20
全体の平均							4.14

*「平均値」は、設問回答率の5段階を数値として捉えて、累計したものを回答率合計で割った値です。(但し、問19は5段階を反転して計算しています)

設問1～20の平均値



岡崎女子大学

● 3-5 平成26年度前期 授業アンケート実施結果（短大 全科目）

学生による授業アンケート

2014年度 前期

授業科目名：全科目

クラス：

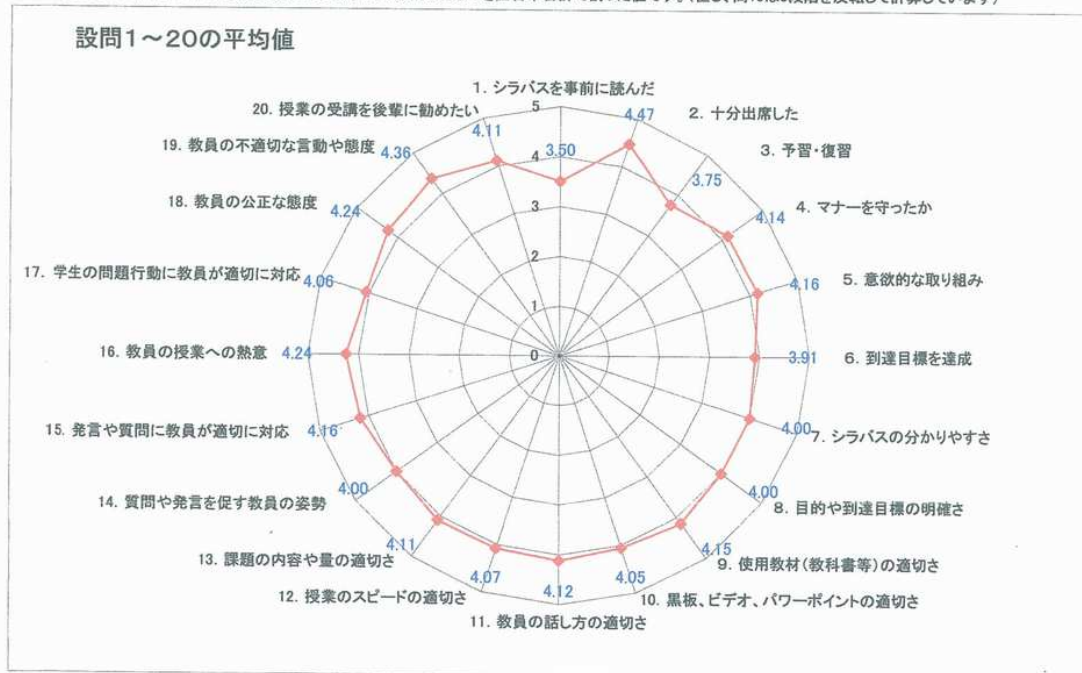
担当教員名：

受講者数： 9593 人

回答者数： 8655 人

設問項目	5 とてもそう 思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 そう思わ ない	1 全くそう 思わない	無回答	平均値
1. あなたは、シラバスを事前に読んで授業に臨みましたか。	15.2	34.5	38.8	8.0	3.5	0.2	3.50
2. あなたは、授業に十分出席しましたか。	59.9	28.9	9.9	1.0	0.2	0.0	4.47
3. あなたは、この授業に関する自己学習（予習・復習など）に努めましたか。	22.1	39.3	31.2	5.8	1.3	0.2	3.75
4. あなたは、授業中のマナー（私語、居眠り、携帯電話、途中入退室、化粧等）を守ることができましたか。	37.3	42.2	17.7	2.5	0.2	0.1	4.14
5. あなたは、この授業に意欲的に取り組みましたか。	37.1	43.5	17.4	1.6	0.4	0.2	4.16
6. あなたは、この授業の到達目標を達成することができましたか。	24.7	43.8	29.1	1.7	0.5	0.1	3.91
7. シラバスや教員の事前の説明は分かりやすいものでしたか。	30.8	43.1	21.9	3.1	0.9	0.2	4.00
8. この授業の目的や到達目標は明確でしたか。	30.4	42.7	23.3	2.7	0.7	0.2	4.00
9. この授業で使用された教材（教科書、資料、材料等）は適切でしたか。	38.3	41.4	17.1	2.1	0.7	0.2	4.15
10. 黒板、ビデオ、プレゼンテーションソフト（パワーポイント等）などの使い方は適切でしたか。	35.2	39.8	20.6	3.0	1.2	0.1	4.05
11. 教員の話し方（声の大きさ、話す速さ、メリハリ等）は適切でしたか。	40.5	37.6	16.2	4.0	1.6	0.2	4.12
12. 学生の理解度を確認するなど、授業を進めるスピードが適切に保たれていましたか。	37.0	39.5	18.1	4.0	1.1	0.2	4.07
13. 課題の内容や量は適切でしたか。	36.3	41.9	18.6	2.3	0.8	0.2	4.11
14. 教員は、質問や発言を促そうとしていましたか。	33.7	39.1	22.0	3.9	1.3	0.1	4.00
15. 教員は、学生の発言や質問に適切に対応していましたか。	39.4	40.6	17.3	1.9	0.7	0.1	4.16
16. 教員に、授業への熱意が感じられましたか。	43.8	39.1	15.0	1.5	0.6	0.1	4.24
17. 教員は、授業にふさわしくない学生の行動等に適切に対応していましたか。	35.6	40.1	19.8	2.6	1.6	0.3	4.06
18. 教員は、すべての学生に公正な態度で接していましたか。	43.7	39.3	14.1	1.3	1.2	0.4	4.24
19. 教員に、学生に対する不適切な言動など人権に関わる態度が見られましたか。	3.0	4.9	11.6	13.2	67.0	0.2	4.36
20. あなたは、この授業の受講を後輩にも勧めたいですか。	39.8	36.1	19.5	2.7	1.4	0.4	4.11
21. 自由設問（教員の指示に従って回答してください。）	6.2	3.5	2.8	0.1	0.1	87.2	4.23
全体の平均							4.08

*「平均値」は、設問回答率の5段階を数値として捉えて、累計したものを回答率合計で割った値です。（但し、問19は5段階を反転して計算しています）



岡崎女子短期大学

● 3－6 授業アンケートの結果報告及び自己点検報告書の提出について

平成26年11月20日

授業担当教員 各位

岡崎女子大学
FD委員会委員長
小野 隆

授業アンケートの結果報告及び自己点検報告書の提出について

先生方におかれましては、日頃より本学学生の学力向上のためにご尽力いただき、誠にありがとうございます。

さて、ご協力いただきました平成26年度前期授業アンケートの結果をご報告させていただきます。

なお、「授業アンケートによる自己点検報告書」を、12月19日（金）までに教務課へご提出くださいますようお願い申し上げます。

「授業アンケートによる自己点検報告書」の様式は、ホットビズのキャビネット「教務関係」にありますのでご利用ください。

メールで提出される場合は、教務課メールアドレス kyoumu@okazaki.ac.jp へお願いします。

● 3－7 授業アンケートによる自己点検報告書

【授業アンケートによる自己点検報告書】（平成26年度前期）

所 属 学 科		教 員 氏 名	
授 業 科 目 名		授 業 形 態	講義 演習 実習 実技 その他
学 年	年	ク ラ ス	
授業アンケートによる自己点検結果			
授業アンケートの結果で優れていた点			
授業アンケートの結果で改善すべき点			

● 3－8 平成26年度後期 学生による授業アンケート実施について（お願い）

平成26年12月19日

授業担当教員各位

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学
学長 長柄孝彦

「学生による授業アンケート」（後期）の実施について（お願い）

先生方におかれましては、日頃より本学学生の学力向上のためにご尽力いただき、誠に有難うございます。

今回、昨年度に引き続きアンケート結果の授業改善への活用をさらに図ることをねらいに、授業アンケート項目及び結果の提示方法について見直しを行いました。下記要領により「学生による授業アンケート」を実施させていただきたいと思いますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

記

1 実施目的

本学教員が自分の授業内容・授業方法を改善するため、また本学が教育環境を改善する上での材料を得るために、受講生の意見を調査することを目的に実施します。

2 実施期間

後期授業の第13週から第15週の期間でお願いします。

3 実施する授業

全ての授業科目（全コマ）で実施してください。

ただし、ゼミ及び受講者10名未満の授業科目は除きます。

4 実施方法

- ・ 必要枚数分のアンケート用紙を教務課で受け取ってください。
- ・ 授業時間内にアンケート回収に協力してもらえる学生を選出してください。
- ・ 回収協力の学生選出後、アンケート用紙を配布してください。
- ・ アンケート回収協力の学生に回収用封筒を渡し、記入後のアンケートを回収させてください。
（各先生は回収作業には関与しないで下さい）
- ・ 回収したアンケート用紙は、未使用のアンケート用紙を含めて封筒に入れ、回収協力学生に教務課まで、授業後すみやかに戻すようにご指示ください。（教員自身が回収・返却しないことを原則とします。）

5 アンケート集計結果による自己点検報告書の提出

後日、アンケートの集計結果をお届けしますので、自己点検評価をし、指定期日までに、配布の「授業アンケートによる自己点検報告書」を提出下さい。

<問い合わせ先>

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学教務課

Tel 0564-28-3315

E-mail kyoumu@okazaki.ac.jp

学生による授業アンケート

実施日 年 月 日

このアンケートは学生の視点を活用して、本学の授業の改善を図るためのものです。

- 調査は無記名で行い、個々の回答内容について公開されることはありません。
- 回答内容が成績に影響することはありません。
- 学生それぞれが、大学を構成する重要な一員として、本学の教育をより良いものにするという意識のもとに、率直に回答してください。
- 回答内容（数値データ）に関しては、ファイルにまとめ、授業担当者だけでなく、学生や教職員が学修支援センターで閲覧できるようにするとともに、教育環境の改善をする上での大切な資料とします。

■ 授業科目、教員氏名、あなたの学年クラスを記入してください。

授業科目		
教員氏名		
あなたの学年クラス	年	クラス

■ 1 から 19 の設問について、5 段階評価でもっとも適切な番号に○をつけてください。

【設 問 項 目】

選択基準： 5 そう思う 4 少し思う
3 どちらともいえない 2 あまり思わない
1 そう思わない

1 あなた自身について

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 1 あなたは、シラバスを事前に読んでよく理解した上で授業に臨みましたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 あなたは、この授業に積極的に参加しましたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 この授業 1 回(90 分)のための予習・復習に費やした時間は平均()であった。
⑤ 4 時間以上 ④ 3 時間 ③ 2 時間 ② 1 時間
① 30 分以下 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 4 あなたは、授業中のマナー(私語、居眠り、携帯電話、途中入退室等)を守ることができましたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

2 授業について

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 5 シラバスや教員の事前の説明は目標、内容、評価方法を示し、分かりやすいものでしたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 この授業は、シラバスまたは教員の事前の説明どおりに授業が進められましたか？ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 課題の内容や量は適切でしたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 授業内容の難易度は適切でしたか。
⑤非常に難しい ④難しい ③適切 ②やさしい
①非常にやさしい | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

3 授業方法、教員について

9 教員に、授業への熱意が感じられましたか。	5	4	3	2	1
10 教員の説明は分かりやすかったですか。	5	4	3	2	1
11 教員の話し方（声の大きさ、話す速さ、メリハリ等）は適切でしたか。	5	4	3	2	1
12 黒板、教科書、ビデオ、プレゼンテーションソフト（パワーポイント等）などの使い方は適切でしたか。	5	4	3	2	1
13 教員は、質問や発言を促そうとしていましたか。	5	4	3	2	1
14 教員は、学生の発言や質問に適切に対応していましたか。	5	4	3	2	1
15 教員は、授業にふさわしくない学生の行動等に適切に対応していましたか。	5	4	3	2	1
16 教員は、すべての学生に公正な態度で接していましたか。	5	4	3	2	1

4 教育効果について

17 あなたは、この授業の到達目標を達成することができましたか。	5	4	3	2	1
18 授業により知的に触発され、さらに深く勉強したくなりましたか。	5	4	3	2	1
19 授業は全体として満足できるものでしたか。	5	4	3	2	1

■ 自由記述

- この授業で良かったと思う点について書いてください。

- 改善した方がよいと思う点について書いてください。

- その他、教室の設備や校舎の環境などについて改善を要望するようなことがありましたら書いて下さい。

● 3-10 平成26年度後期 授業アンケート実施一覧

専任教員					
No.	氏名	曜日	クラス	科目名	履修者数
1	長 柄 孝 彦	火3	1C	パフォーマンスボディⅡ	43
2	小 宮 富 子	月2	1S	英語総合（初級）	43
		金3	1T	英語総合（初級）	42
3	矢 藤 誠 慈 郎	火4	2ST	教育・保育課程論	63
		火5	1ST	保育者論	85
		金3	2ST	教育方法論	63
4	大 岩 み ち の	月4	1AB	保育課程論	88
		月5	1CD	保育課程論	85
		木1	1EG	保育課程論	89
5	赤羽根 有里子	火3	2A	児童文化演習Ⅱ	49
		木3	1T	保育内容演習「言葉」Ⅱ	42
		金2	1S	保育内容演習「言葉」Ⅱ	43
6	上 田 信 道	水1	2C	児童文化演習Ⅱ	50
		木2	1ST	文章表現法	43
		木5	1CD	児童文学	17
		金1	1G	基礎演習Ⅱ	41
7	小 川 宜 子	火2	1S	基礎音楽Ⅱ	44
		火3	1T	基礎音楽Ⅱ	42
		金1	1E	基礎音楽Ⅱ	46
		金2	1G	基礎音楽Ⅱ	41
8	小 野 隆	月4	2ST	体育実技Ⅱ	13
		火3	2ST	保健体育講義	63
		土2	1A～D・1EG	レクリエーション概論	105
9	小 原 倫 子	月1	2A	保育カウンセリング	49
		月2	1T	教育と発達の心理学Ⅱ	42
		月3	1S	教育と発達の心理学Ⅱ	43
		水1	2B	保育カウンセリング	51
10	岸 本 美 紀	月3	1CD	幼児理解の理論と方法	88
		月5	1AB	指導法の研究	89
		火1	2G	保育実習指導Ⅰ（保育所）	43
		火2	2E	保育実習指導Ⅰ（保育所）	46
11	北 浦 恒 人	火2	1S	基礎音楽Ⅱ	44
		火3	1T	基礎音楽Ⅱ	42
		木3	2S	基礎音楽Ⅳ	18
		木4	2T	基礎音楽Ⅳ	26
		金4	1B	基礎音楽Ⅱ	43

● 3-10 平成26年度後期 授業アンケート実施一覧

12	権 絃 珠	火1	1C	保育実習指導Ⅰ（施設）	43
		火4	2D	相談援助	53
		水1	2E	保育実習指導Ⅰ（施設）	46
		水2	2B	相談援助	51
		木2	2ST	相談援助Ⅱ	27
		木5	2ST	高齢社会と福祉	63
13	佐 善 圭	水1	1T	造形Ⅱ	42
		水2	1S	造形Ⅱ	43
		木3	2T	造形Ⅳ	15
		木4	2S	造形Ⅳ	29
14	白 石 さ や	金2	1A～D	人間と環境	10
15	白 垣 潤	火2	2C	障害児保育Ⅱ	50
		火4	2C	保育カウンセリング	49
		水2	2A	障害児保育Ⅱ	49
		土1	2G	障害児保育Ⅱ	42
16	鈴 木 方 子	月1	1G	乳児保育Ⅱ	41
		月2	1E	教育実習（事前・事後指導を含む。）	47
		水1	1EG	幼児理解の理論と方法	89
		木1	1AB	幼児理解の理論と方法	89
		木3	1S	乳児保育Ⅱ	43
		木4	1T	乳児保育Ⅱ	42
17	仲 田 勝 美	月1	2G	相談援助	42
		月2	2E	相談援助	45
		月3	2C	相談援助	50
		水1	1D	保育実習指導Ⅰ（施設）	43
		木2	2G	保育実習指導Ⅰ（施設）	43
		木5	2ST	高齢社会と福祉	63
		金5	2ST	介護技術演習	23
18	中 田 基 昭	火4	1ST	女性の生き方	85
		火5	2ST	教育人間学	63
		水2	1EG	保育者論	89
19	吉 村 譲	月1	1B	保育実習指導Ⅰ（施設）	44
		月2	2C	社会的養護内容	50
		水1	2D	社会的養護内容	50
		木1	3G	保育相談支援	38
		木2	3E	保育相談支援	33
		木4	2A	相談援助	50
20	山 田 光 治	月1	1A	保育実習指導Ⅰ（施設）	44
		月2	2T	社会的養護内容	30
		月3	2S	社会的養護内容	33

● 3-10 平成26年度後期 授業アンケート実施一覧

21	鳥居恵治	月1	3EG	健康とスポーツ（講義）	72
		月2	1C	幼児体育Ⅱ	43
		火4	1C	保育表現演習	43
		金1・2	2A～D	教職実践演習（幼稚園）	200
22	鈴木恒一	火1	2B	保育内容演習（環境）	51
		火2	2D	保育内容演習（環境）	50
		金1・2	2CD	教育実習	100
		土1	2E	保育表現演習	46
23	梅下弘樹	火1	2E	障害児保育Ⅱ	44
		木3	2D	保育カウンセリング	50
		木4	2B	障害児保育Ⅱ	51
		金3	1D	保育表現演習	42
24	加藤早苗	月1	2S	保育内容演習「人間関係」Ⅱ	30
		月3	2T	保育内容演習「人間関係」Ⅱ	30
		金1・2	2A～D	教職実践演習（幼稚園）	200
		金1・2	2AB	教育実習	101
25	鈴木文代	火3	1A	保育実習指導Ⅰ（保育所）	44
		火4	1B	保育実習指導Ⅰ（保育所）	44
		金2	1E	乳児保育Ⅱ	47
26	鈴木穂波	火1	1E	基礎演習Ⅱ	48
		木3	2B	児童文化演習Ⅱ	51
		木4	2D	児童文化演習Ⅱ	50
		木5	1AB	児童文学	29
27	妹尾美智子	月2	2G	幼児音楽Ⅱ	43
		月3	2B	幼児音楽Ⅱ（a）	45
		月4	2C	幼児音楽Ⅱ（a）	32
		火4	1D	基礎音楽Ⅱ	42
		火5	2AB	幼児音楽Ⅱ（b）	29
		木1	2G	保育表現演習	43
		木2	1A	基礎音楽Ⅱ	45
28	滝沢ほだか	火4	1D	基礎音楽Ⅱ	42
		火5	2AB	幼児音楽Ⅱ（b）	29
		木1	1C	基礎音楽Ⅱ	43
		金1・2	2A～D	教職実践演習（幼稚園）	200
		金4	1B	基礎音楽Ⅱ	43
29	戸田順子	火1	3G	社会的養護内容	36
		火2	3E	社会的養護内容	35
		火3	2B	社会的養護内容	53
		木2	1EG	児童家庭福祉	90
		木4	1B	保育表現演習	43
		金4	2A	社会的養護内容	49

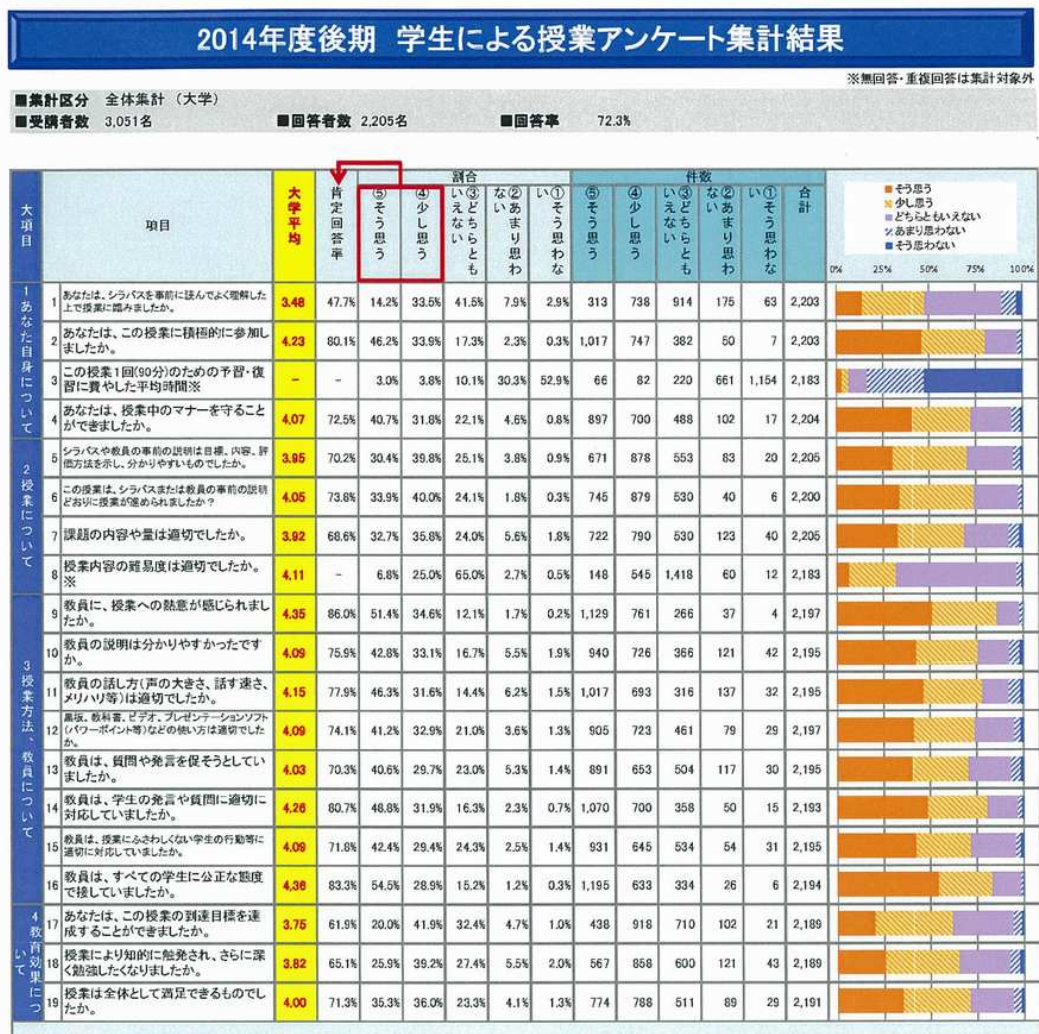
● 3-10 平成26年度後期 授業アンケート実施一覧

30	中 村 治 人	火2	2AB	教育制度・政策論	100
		火3	2CD	教育制度・政策論	100
		水1	3EG	教育方法論	71
		金3	1AB	教育原理	92
		金4	1CD	教育原理	85
31	野 田 美 樹	月2	2A	保育内容演習（環境）	49
		月4	1C	保育実習指導Ⅰ（保育所）	43
		木3	1D	保育実習指導Ⅰ（保育所）	43
		木4	2C	保育内容演習（環境）	50
		金1・2	3EG	教職実践演習（幼稚園）	74
32	平 尾 憲 嗣	月1	2E	幼児音楽Ⅱ	47
		月2	2S	声楽Ⅱ	11
		火1	2CD	幼児音楽Ⅱ（b）	34
		火2	1S	基礎音楽Ⅱ	44
		火3	1T	基礎音楽Ⅱ	42
		金1・2	3EG	教職実践演習（幼稚園）	74
33	古 川 芳 子	火2	1G	教育実習（事前・事後指導を含む。）	42
		水2	3EG	女性の自立と人権	74
34	真 木 弘	月1	2CD	健康とスポーツ（講義）	100
		月3	2M	健康とスポーツ（実技）Ⅱ	13
		火3	2M	健康とスポーツ（講義）	3
		火4	2AB	健康とスポーツ（講義）	103
35	山 下 晋	火2	1T	保育内容演習「健康」Ⅱ	42
		火3	1S	保育内容演習「健康」Ⅱ	43
		火4	1A	保育表現演習	44
		木1	2E	幼児体育Ⅱ	45
		木3	1A	幼児体育Ⅱ	46
		金2	1T	幼児体育Ⅱ	42
		金3	1S	幼児体育Ⅱ	43
36	山 田 悠 莉	月3	1A	パフォーミングボディⅡ	45
		月4	1D	パフォーミングボディⅡ	42
		金1～2	2A～D	教職実践演習（幼稚園）	200
37	横 田 典 子	水1	1C	幼児造形Ⅰ	44
		木1	1D	幼児造形Ⅰ	44
		木2	1B	幼児造形Ⅰ	43
		金1・2	2A～D	教職実践演習（幼稚園）	200
38	米 窪 洋 介	月2	1A	幼児造形Ⅰ	46
		火1	1G	幼児造形Ⅰ	41
		火2	1E	幼児造形Ⅰ	48
		金1・2	3EG	教職実践演習（幼稚園）	74

● 3-10 平成26年度後期 授業アンケート実施一覧

39	市原 潔	月2	1M	情報基礎演習Ⅱ	33
		月4	1ST・2ST	数学の基礎	85
		木5	1MP	コンピュータ資格講座Ⅰ	34
40	河合 晋	月1	1M	簿記原理Ⅱ	33
		月2	1P	簿記原理Ⅱ	28
		火3	1MP	経営実務演習Ⅰ	61
		木4	1MP	簿記検定講座Ⅱ	43
41	黒野 伸子	月4	1MP	医事法制	39
		水2	2M	医療管理学概論	26
		金1	1MP	診療報酬請求論Ⅱ	39
		金2	1MP	診療報酬請求実務Ⅰ	39
42	笹瀬 佐代子	火2	1M	秘書実務Ⅰ	33
		火5	1P	秘書実務Ⅰ	28
		金3	1MP	ビジネス文書	41
		金5	1MP	秘書検定講座	12
43	竹本 行雄	金1	1A～D	日本語表現	42
		金2	1A～D	日本語表現	43
44	日野水 憲	月2	1S	英語総合（初級）	43
		木2	1M	英語Ⅱ	21
		金3	1T	英語総合（初級）	43
45	祝田 学	月3	1MP	マーケティング・リサーチ	50
		木1	1MP	経営戦略	41
46	町田 由徳	火3	1MP	経営実務演習Ⅰ	61
		水1	1MP	CADオペレーションⅠ	30
		水2	1MP	ユニバーサルデザイン	28

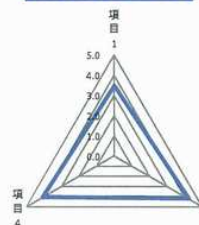
● 3-11 平成26年度後期 授業アンケート実施結果（大学 全科目）



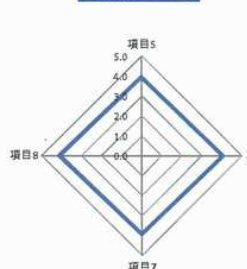
※項目3は5(4時間以上、4(3時間、3(2時間、2(1時間、1(30分以下、項目8は5(非常に難しい、4(難しい、3(適切、2(やさしい、1(非常にやさしい)平均：「⑤そう思う」「③適切」を5点、「④少し思う」「⑤非常に難しい」を4点、「③どちらともいえない」「②やさしい」を3点、「②あまり思わない」「④難しい」を2点、「①そう思わない」「①非常にやさしい」を1点として加重平均

■設問項目別平均グラフ

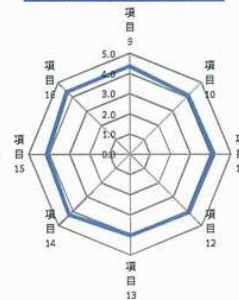
1.あなた自身について



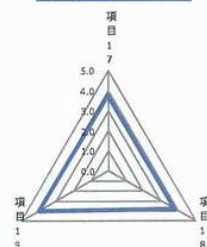
2.授業について



3.授業方法、教員について



4.教育効果について

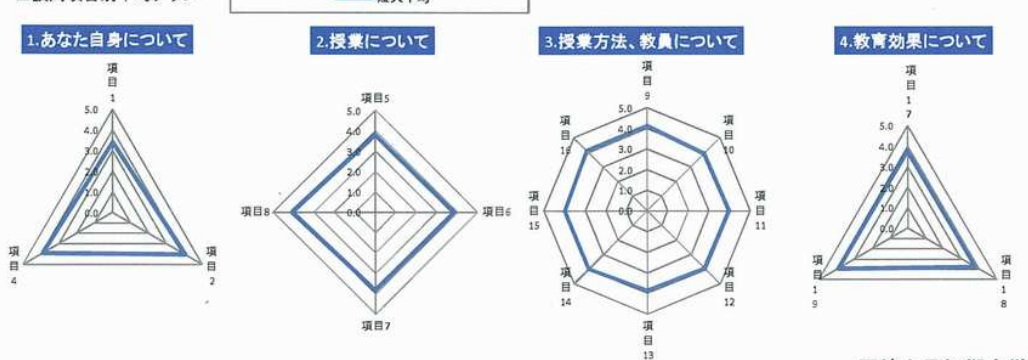


岡崎女子大学

● 3-12 平成26年度後期 授業アンケート実施結果（短大 全科目）



■設問項目別平均グラフ



岡崎女子短期大学

● 3-13 学修状況についてのアンケート 記入用紙（表面）

2014 年 7 月

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学

本学では、皆さんの学修状況についてのアンケートを実施することになりました。

回答により個人が特定されることはありません。よりよい学修環境を整える上で必要な調査です。

率直に回答してください。

学修状況についてのアンケート

以下の質問の該当する回答番号に○をつけて下さい。

1. 学科

- ①岡崎女子大学 子ども教育学科 ②岡崎女子短期大学 幼児教育学科第一部
③岡崎女子短期大学 幼児教育学科第三部 ④岡崎女子短期大学 現代ビジネス学科

2. 学年

- ①1 年 ②2 年 ③3 年

3. 2014 年度前期の学修状況についてお尋ねします。前期授業の課題の量は？

- (1)毎週課題がある ①1～2 科目 ②3～5 科目 ③6 科目以上 ④その他 ()
(2)月 1 回課題がある ①1～2 科目 ②3～5 科目 ③6 科目以上 ④その他 ()

4. 各授業で課題が出された時、課題への取組に 1 週間の平均で合計どのくらい時間をかけていますか？

- ①2 時間未満 ②2 時間以上 5 時間未満 ③5 時間以上 ④その他 (時間)

5. 授業の準備、課題はどこでしますか？(複数回答可)

- ①図書館 ②教室 ③ラーニングプラザ ④2 号館 1 階のフロア ⑤カフェテリア ⑥自宅
⑦電車の中 ⑧その他 ()

6. 授業の課題の参考として何を利用していますか？(複数回答可)

- ①図書館の参考図書 ②インターネット ③その他 ()

7. 以下の項目について、あなたの学習能力や知識は、入学時と比べてどのように変化しましたか？

5 段階評価で回答してください。(5. 大きく増えた 4. 増えた 3. 変化なし 2. 減った 1. 大きく減った)

- | | | | | | |
|--------------------|----|----|----|----|----|
| 1) 一般的な教養 | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| 2) レポートの書き方 | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| 3) 授業でのノートの取り方 | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| 4) 外国や外国語学習への興味 | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| 5) 教科書・文献・参考資料を読む力 | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |

● 3-13 学修状況についてのアンケート 記入用紙（裏面）

6) コンピューターの操作能力	5.	4.	3.	2.	1.
7) 自分からすすんで学習する力	5.	4.	3.	2.	1.
8) 他者の話を聞く力	5.	4.	3.	2.	1.
9) 自分の考え方を他者に伝える力	5.	4.	3.	2.	1.
10) 自分とは違う意見を受け入れる力	5.	4.	3.	2.	1.
11) 自分の考えや意見を文章で表現できる力	5.	4.	3.	2.	1.
12) ボランティア活動への興味	5.	4.	3.	2.	1.
13) 時事的・社会的な問題への興味	5.	4.	3.	2.	1.
14) 自ら考え判断することのできる柔軟な思考力	5.	4.	3.	2.	1.
15) 他の人と協力して物事を進めることができる能力	5.	4.	3.	2.	1.
16) 自分の将来像のイメージ	5.	4.	3.	2.	1.
17) 資格や免許取得に役立つ知識・技能	5.	4.	3.	2.	1.
18) 専攻分野における専門知識	5.	4.	3.	2.	1.
19) 実社会（幼稚園・保育所・施設・企業・地域など）での経験	5.	4.	3.	2.	1.

8. 本学で取得できる資格・免許以外に各種検定や資格等の学習をしていますか？

①はい（検定の名称） ②いいえ

9. 本学の全般的な教育環境についての満足度についておたずねします。

5段階評価で回答してください。（5. とても満足 4. 満足 3. 普通 2. 不満 1. とても不満）

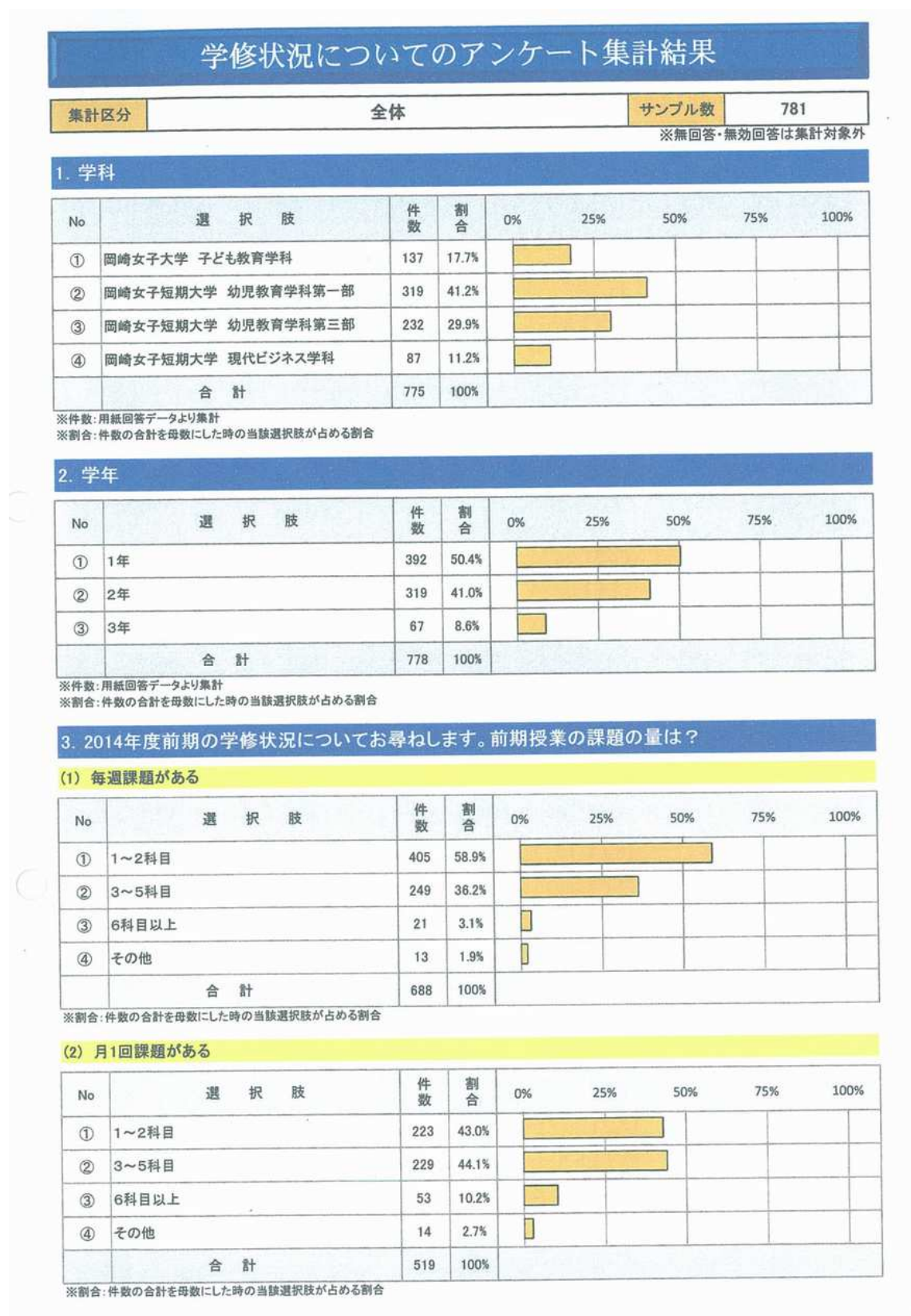
1) 1つのクラスを履修する学生数	5.	4.	3.	2.	1.
2) 成績評価基準の明確さ	5.	4.	3.	2.	1.
3) 学修支援相談、指導	5.	4.	3.	2.	1.
4) 授業以外で教員と接する時間	5.	4.	3.	2.	1.
5) 教室の設備や校舎の環境	5.	4.	3.	2.	1.
6) 授業で教員が使用する機器等の見やすさ	5.	4.	3.	2.	1.

10. 現時点で学生生活は充実していると感じていますか？

5. 充実している 4. まあまあ充実している 3. 普通
2. どちらかというと充実していない 1. 充実していない

ご協力ありがとうございました。

● 3-14 学修状況についてのアンケート実施結果（全体）



● 3-14 学修状況についてのアンケート実施結果（全体）

学修状況についてのアンケート集計結果

集計区分	全体	サンプル数	781
------	----	-------	-----

※無回答・無効回答は集計対象外

4. 各授業で課題が出された時、課題への取組に1週間の平均で合計どのくらい時間をかけていますか？

No	選 択 肢	件数	割合	0%	25%	50%	75%	100%
①	2時間未満	339	44.1%					
②	2時間～5時間未満	384	49.9%					
③	5時間以上	42	5.5%					
④	その他	4	0.5%					
	合 計	769	100%					

※割合：件数の合計を母数にした時の当該選択肢が占める割合

5. 授業の準備、課題はどこでしますか(複数回答可)

No	選 択 肢	件数	割合①	割合②	累積比	ランク	0%	25%	50%	75%	100%
⑥	自宅	718	91.9%	47.6%	47.6%	A					
②	教室	211	27.0%	14.0%	61.6%	B					
①	図書館	142	18.2%	9.4%	71.1%	B					
③	ラーニングプラザ	137	17.5%	9.1%	80.2%	C					
④	2号館1階のフロア	91	11.7%	6.0%	86.2%	C					
⑦	電車の中	79	10.1%	5.2%	91.4%	C					
⑤	カフェテリア	73	9.3%	4.8%	96.3%	C					
⑧	その他	56	7.2%	3.7%	100.0%	C					
		1,507									

※割合①：全体(サンプル数)に占める当該選択肢の割合(各件数/サンプル数で算出)

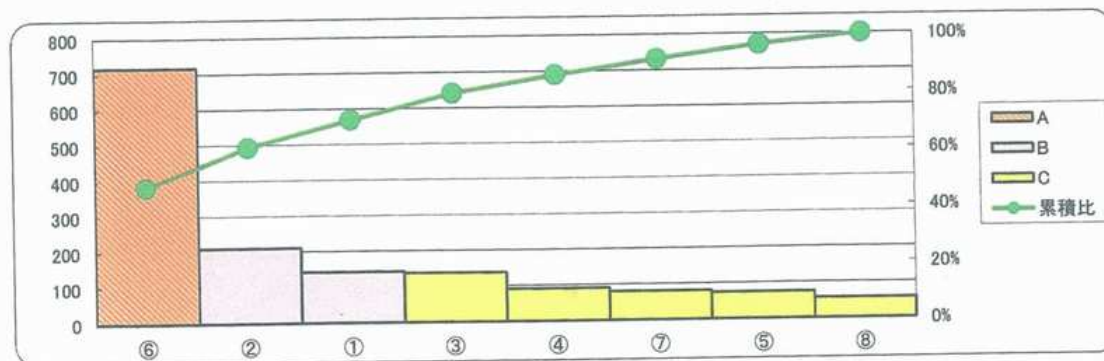
※割合②：件数の合計を母数にした時の当該選択肢が占める割合

●ランクA：累積比 0～60%

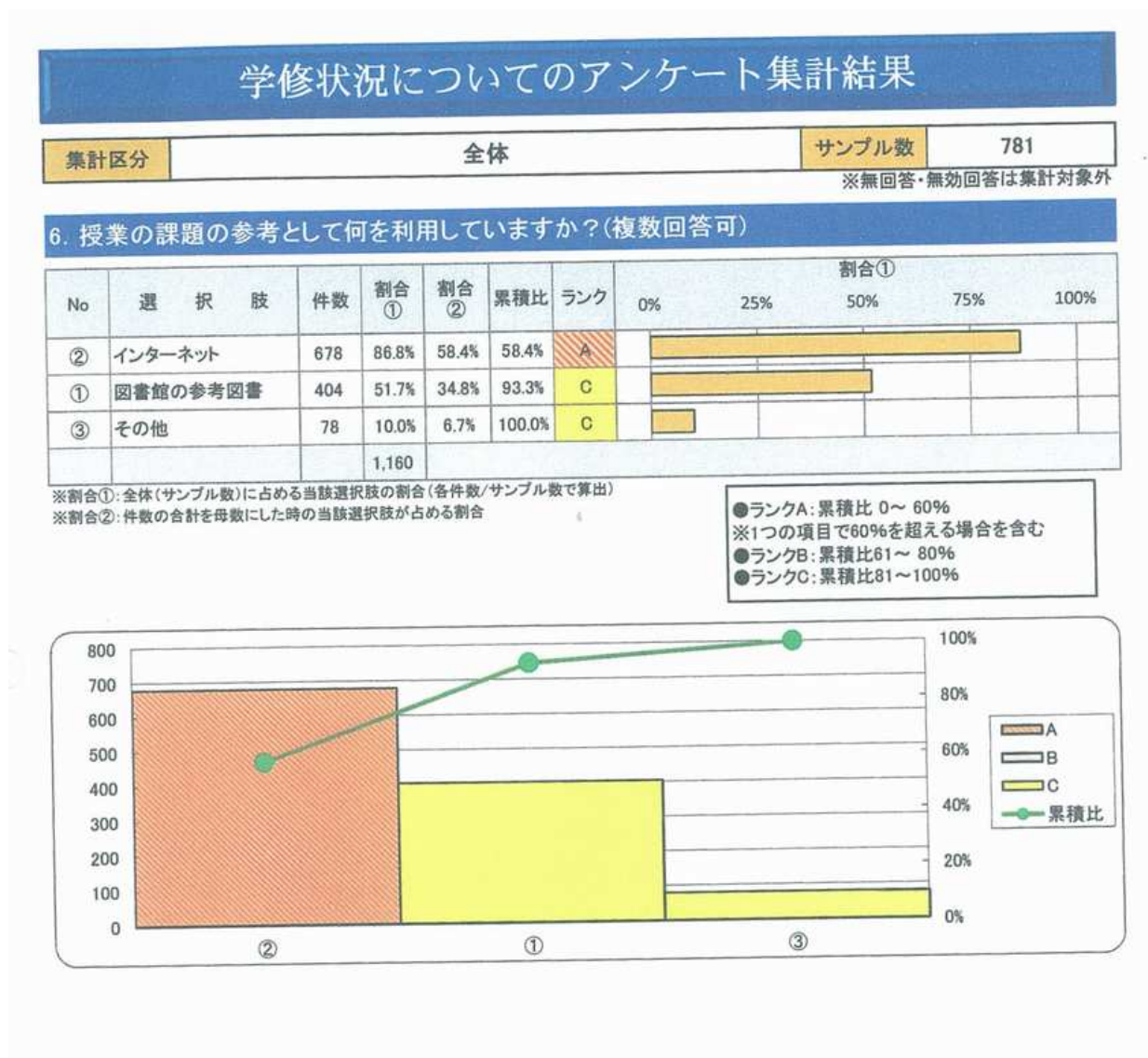
※1つの項目で60%を超える場合を含む

●ランクB：累積比61～80%

●ランクC：累積比81～100%



● 3-14 学修状況についてのアンケート実施結果（全体）



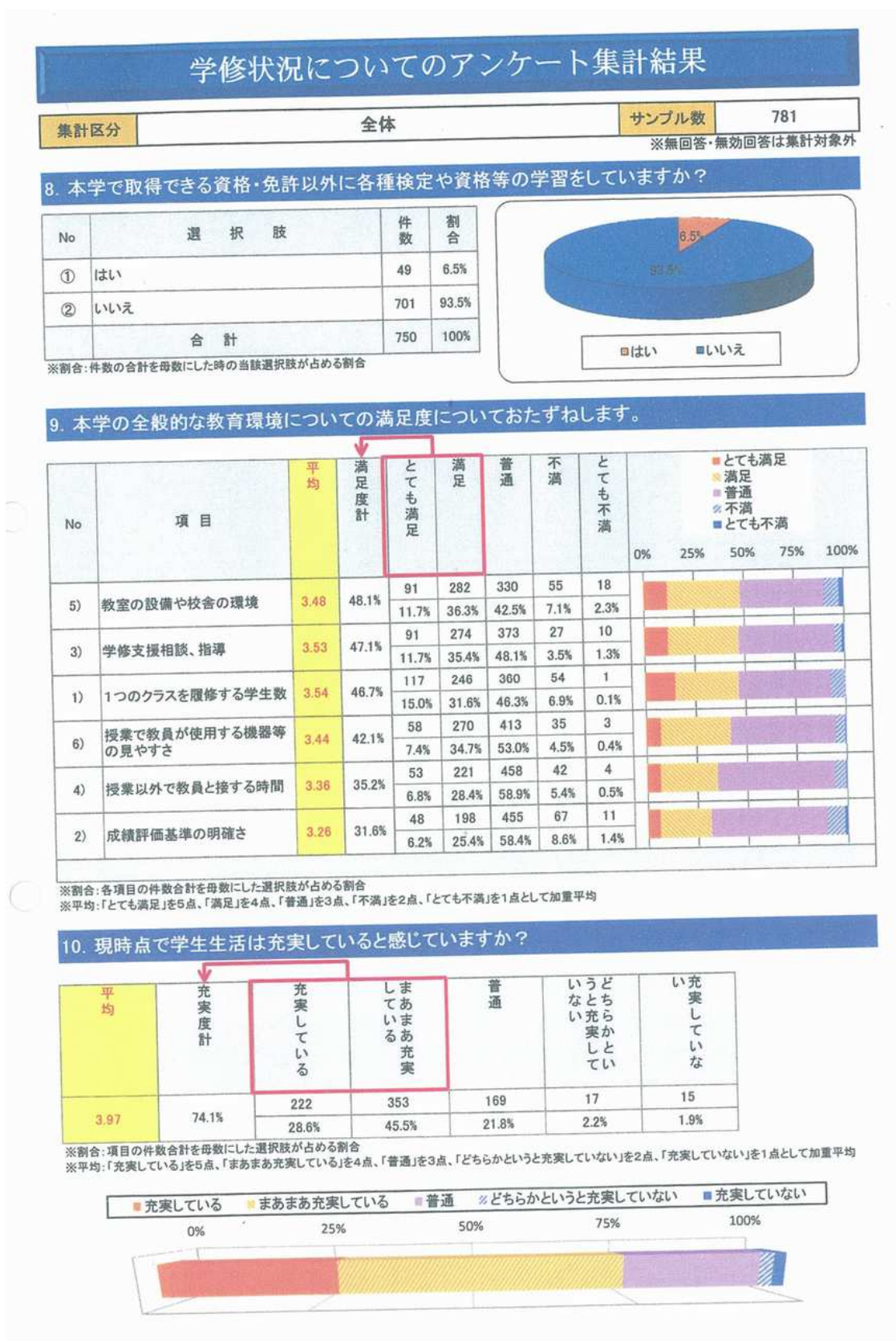
● 3-14 学修状況についてのアンケート実施結果（全体）



※割合：各項目の件数合計を母数にした選択肢が占める割合

※平均：「大きく増えた」を5点、「増えた」を4点、「変化なし」を3点、「減った」を2点、「大きく減った」を1点として加重平均

● 3-14 学修状況についてのアンケート実施結果（全体）



4. F D研修会関係

平成26年度は計3回のF D研修会を開催した。

前期に実施した内容とその結果を示す資料を次頁以降に掲載する。

実施日と主な内容や実施した成果を示す資料を次頁以降に掲載する。

なお、4-2資料2～3枚目については、本学地域協働推進センター所報「地域協働研究」vol.1 p.65～70に論文「「気になる学生」の指導のための情報共有システムの試案」（2015.3）として掲載しているので参照されたい。

● 4－1 平成26年度「FD研修会」実施案

2014/6/18

大学・短大FD委員会連絡協議会

平成26年度FD研修会（案）

FD研修会WG

（1）FD研修会のテーマ

① 本学教職員の聞きたい内容（平成25年度FD研修会報告より）

- ・ 本学におけるポリシーについて
- ・ 学生の学ぶ意欲引き出す授業のあり方について
- ・ 授業評価について
- ・ 学修の成果（履修カルテ）の活用について
- ・ 学生の人間力を上げる教育のあり方
- ・ 第三者評価について

② 大学ポートレートについて

各大学等では、教育の質を保証・向上させていくため、教育情報を収集し、分析することによって、自らの活動の課題を把握し、それを教育改善に生かしていくことが重要です。同時に、学生が修得すべき知識・能力やその達成のために教育活動における特色や強みを社会に分かりやすく示すため、一層の努力と工夫が求められています。

大学ポートレートは、各大学が公的な教育機関としての説明責任と教育の質の保証・向上という責務を果たすため、その支援方策として教育情報の活用・公表のための共通的な仕組みとして提供されるものです。

なお、大学ポートレートは、教育情報の活用・公表について、大学や大学団体等が自主的・自立的に取り組むことを基本的な考えとし、そのことを尊重するという観点から、我が国の大学等の歴史的経緯や多様性を踏まえ、国公立共通の情報の公表や活用に加えて、設置主体ごとの特色ある情報の公表や活用の充実を図ることが求められており、その運営についても、関係団体においては積極的に検討が行われることが期待されています。（日本私立学校振興・共済事業団HPより）

（2）FD研修会予定

① 第1回研修会

日時・・・平成26年10月1日（水）14：50～

※9月24日はSD研修会が予定されており、日程を調整してFD・SD合同研修会にする可能性もあります。

講師・・・本学教員

② 第2回研修会

日時・・・12月10日（水）14：50～

講師・・・未定

（3）予算

① 学内研修費

講師料 50,000 円×2 人＝100,000 円

宿泊費 50,000 円×2 人＝100,000 円

● 4-2 第1回FD・SD合同研修会レジメ

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 平成26年度第1回FD・SD合同研修会

学生が最後まで学ぶために、教職員は何ができるか？

■日時：平成26年10月1日（水）14：50～16：00

■会場：6212 教室及びラーニング・プラザ（*6212 教室にお集まりください）

■目的

- ・学生の休学・退学の状況を把握し、どのようなサポートが必要であるかを検討する。
- ・FD（Faculty Development）の意義について、教職員間で共通理解をし、授業内容や方法の改善、質の向上のための組織のあり方について検討する。

■内容とスケジュール

（全体の進行：山下委員）

- | | | |
|----------------------|--------|-----------------|
| 1. 挨拶 | (1 分) | 山田 光治 短大 FD 委員長 |
| 2. 岡崎女子短期大学の休学・退学の実態 | (10 分) | 藤井 暖子 SD 委員 |
| 3. FD について | (20 分) | 白垣 潤 FD 委員 |

＜ラーニング・プラザへ移動＞ (5 分)

- | | | |
|---------------------------|--------|----------------|
| 4. グループワーク | (20 分) | |
| ～気になる学生に対して、どのような支援ができるか～ | | |
| 5. 質疑応答 | (12 分) | |
| 6. まとめ | (2 分) | 小宮 富子 大学 FD 委員 |

● 4-3 第1回FD・SD合同研修会グループワークまとめ

平成26年度FD・SD合同研修会グループワークまとめ

平成26年10月1日（水）に開催された岡崎女子大学・岡崎女子短期大学（以下：本学）FD・SD合同研修会のグループワークで出されたレポートを下記のように集約した。

表1：気になる学生の様子と予想される背景

気になる学生の様子		予想される背景
休退学	<ul style="list-style-type: none"> ・休退学者が多い（休学を繰り返す） ・学費を滞納している 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的な理由 ・入学してから、厳しい現実を体験することによって心を病む
学業	<ul style="list-style-type: none"> ・成績が芳しくない →授業態度がよい学生の成績が悪い実態もある ・遅刻、欠席、授業中の退席が多い ・課題の提出状況が悪い（遅延、未提出） ・講義よりも実習指導等の個別指導において気になる ・授業中に質問ができない 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトばかりしている
性格傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・社会性がない →友好関係が築けない、人間関係に問題が感じられる ・攻撃な態度に出るなど、態度が悪い ・心が折れやすい（就職活動で失敗すると立ち直れない） ・自分でやるべきことの課題が見つけられない ・授業が終わっても教室に一人で居残り、何かに没頭している ・見た目ではなく、目標を失っている 	
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力が低く、対人関係に問題がある ・教職員の挨拶や話に応えない ・窓口での反応が薄かったり、無反応である ・教員と目が合わない、合わせようとしない ・学生同士のグループ活動に消極的（グループになれない） ・クラスで孤立している →授業、食事など常に一人で行動している →声をかけて欲しいのか、友人に誘ってほしいのかは不明 	<ul style="list-style-type: none"> ・物静かな性格で友人と交われない ・家庭の影響 →保護者もコミュニケーションをとることが苦手な様子であった
生活態度	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者を目指す者としての身だしなみとして相応しくない →服装や髪形が派手で奇抜、または清潔感がない ・生活指導が必要である（中学・高校レベル） →成績面以外の部分で資格、免許を与えるに値するか悩ましい ・社会的常識、規範意識がない ・同じことを何度言っても改善しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭状況に問題がある →これらは本人、家庭、本人と家庭の混合型に分類され、対応が異なる

次に、グループワークで得られた報告を参考に、気になる学生の支援の現状と課題、支援のあり方、現段階で考える支援策（案）についてまとめた。

● 4-3 第1回FD・SD合同研修会グループワークまとめ

○気になる学生に対する支援の現状と課題

①現在、本学では欠席調査（欠席回数3回、5回で報告）を実施している。

→授業担当教員やクラス担任によって取り組み方が異なり、教員によって温度差が発生している。

②学科会議（月1回開催）では、特に目立つ学生の状況は報告し合っている。

→「少し気になる段階」の学生については、個別での把握・対応にとどまっている。

③学修支援センターでは、学習支援が必要な学生について、授業担当者等にも協力を仰ぎ、個別に支援をしている。また、保健室では、精神面、家庭環境などをカウンセラーに相談する機会を設けている。

→学生が来ない（来ることができない）うえ、単独の部署では限界があり、十分なフォローできていない。

これらのことから、複数の授業担当者から少しでも気になる学生の状況（欠席状況、授業態度）を報告し合うよいと考えられる。また、休学者は休学を繰り返す傾向にあり、本学の短期大学において、休学後に退学した学生の割合は幼児教育学科第一部 70%、同三部 56%、現代ビジネス学科（旧経営実務科）64%となっている。休学した学生が復学し、卒業できるためには「復学生の居場所づくり」が課題であろう。この点も含めて、学生を支援する部署（保健室や学修支援センター）について、ガイダンスやクラスミーティングなどで、その機能を紹介し、相談に行きやすい環境を整える必要が感じられた。

*本学の休学者は、平成23年度34名（3.8%）、24年27名（3.2%）、25年30名（3.7%）であった。

○気になる学生に対する支援のあり方

①多くあげられた意見：「気になる学生に対し、日々の挨拶を含め、声をかけるなど個別対応をする」

【その際のポイント】

- ・学生一人一人の話をよく聞き、生活の様子、自身の能力をよく見極める。
- ・学生から個人的な状況（虐待やリストカット等）を告白されることがあることから、必要があれば、過去にさかのぼった話を聞く。
- ・必要があれば、保護者や保証人に連絡を取る。

②十分な支援することができない学生側の問題点

- ・学生が何らかの問題を抱えていても自ら相談できない原因の1つに、学生自身が個別対応に慣れてしまっており、教職員から声を掛けられるのを待っているのではないか。

→個別対応に加え、学生が安心して主体的に動けるような環境作りを行う必要が感じられた。

③十分な支援することができない教職員側の問題点

- ・学生がどのくらい悩んでいるのかについて、誰が判断すべきか、また、その基準が不明である。
→授業後すぐに退出する学生は気になるか？
- ・特に家庭の問題に関する支援は、どのように（方法）どこまで（程度）行うのかは明らかではない。
- ・特に女子学生なので、男性職員は対応が難しいと感じる。

現在、「気になる学生」の判断は、出欠席状況、成績などの客観的な視点と、教職員の主観的な視点によって行われている。主観的な視点では教員の個人差が大きくなるため、ディプロマ・ポリシーなどから簡易な判定表を作成して、複数の教職員で判断するという手法ができると思われる（下表）。

一方で、支援・指導方法については、確固たるルール決めは難しく、ケースバイケースで対応しなくてはならない。例えば、授業についていけない理由を明確にし、対応していくべきである。現在は、担

● 4-3 第1回FD・SD合同研修会グループワークまとめ

任やゼミ（子どもの研究Ⅰ）担当が指導にあたっているが、学生（保護者も含めて）とコミュニケーションをとり、適切な支援や指導をするためにも教員、職員の様々な角度や視点が必要となる。また、進路の指導方針や休学・退学に対する指導方針等は学生の出席の状況や授業態度、進路希望、家庭の状況など多方面の情報から、学生の利益を最大限に考えた判断（指導）をしなくてはならない。

（例）幼児教育学科第一部生用

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	評 価				
	大変よくできている	よくできている	できている	あまりできていない	全くできていない
①社会で求められる基本的な教養とコミュニケーション能力の獲得					
②保育者に求められる専門的知識と技能の習得					
③子どもの「夢中」をひきだすことのできる豊かな感性の獲得					
④自ら学び考える自律的な学習姿勢の獲得					

* 「あまりできていない」、「全くできていない」学生には支援・指導をするような体制をつくる

○学生の情報の共有システムの構築

①明らかとなった課題

- ・教職員によって、「気になる学生」に対する支援は異なる。
- ・一教職員では、「気になる学生」に対する支援は限界がある。
- ・授業や窓口、保健室などで学生に対して何らかの違和感を抱いても、情報を集約する場所がない。
→情報の共有範囲はすべて個人の判断にゆだねられている。

②「学生相談センター（＝学生の情報の共有システム、仮称）」の設立

- ・システムの手順（フローチャート）に基づき、学生一人一人に合わせた対応をする。

【手順】（ア）学生の相談を受ける（内容に合致した相談窓口があることが望ましい）

- （イ）各部署から全体の情報を収集する
- （ウ）関係者（授業担当者、担任など）を招集しチームを作成する
- （エ）ケースカンファレンス（個別指導方針作成）を実施する
- （オ）実施後、定期的なフォローをする。

学生相談センターとは、学修支援センターが総括する「教員-職員（総務、教務、学生支援、進路支援など）縦割り組織をつなぐシステムである。情報を集約する場所がない、または、相互に持っている情報を学生のために活用するうえで意義深いものとする。このセンターでは、話を聞く相手が教員であると、評価に係わってくるため、本心を読み取ることができなくなる可能性もあることから、学生が話しやすく、学生との信頼関係を築き、学生に寄り添い、状況を正しく判断できるスタッフの育成が必要となる。また、学生の情報共有が教職員間で噂話のように話されることがないように、教職員のモラル形成も必要である。学生相談センターに相談に来る学生と休退学者の因果関係が分かると、早期に対応することができると思われる。

○まとめ

本学で学んでいる学生が地域のために貢献できるよう、また、休学者や退学者を少しでも減らそうとするのであれば、より深い分析を行い、早急の実効性のある制度を作り上げるなど、全学をあげて教職員一丸となった取り組みが必要である。

全学DPを実現するための

カリキュラム・マップに基づくシラバス作成法

■日 時：平成26年12月10日（水）14：50～16：20

■場 所：2201 教室

■目的及び内容

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学の全学ディプロマ・ポリシーを実現するために、各学部・学科においてカリキュラム作成上の方針『カリキュラム・ポリシー』に基づき、カリキュラム・マップを作成している。また、今後は来年度に向け、各学部・学科のディプロマ・ポリシーを意識したシラバス作成も求められている。そこで、今研修会では、全学及び各学部・学科のディプロマ・ポリシーとそれを実現するための授業がカリキュラム・ポリシーやカリキュラム・マップによって、どのように結びついているのかについて理解を深めること、個々の授業が果たすべき役割を明記したシラバスの作成法を習得することを目的とする。

■講師：矢田貝 真一 先生

（大垣女子短期大学 総合教育センター センター長）

■内容とスケジュール

（全体の進行：山下委員）

- | | | |
|----------------|-------|--------------|
| 1. 挨拶及び講師紹介 | (2分) | 永井 量基 学園事務局長 |
| 2. 講演及びグループワーク | (70分) | 矢田貝 真一 先生 |
| 3. 質疑応答 | (15分) | |
| 4. まとめと終わりの言葉 | (3分) | 小宮 富子 大学FD委員 |

平成26年度第2回FD・SD合同研修会に対する教職員の感想

教職員の方々からいただいた感想を集約しましたので、ご報告します。

I. FD研修会WGの感想

今研修会は大変勉強になった。教職員からも同様な感想が寄せられた。これは内容・時期とも、今後のシラバス作成に合致していたことなどが要因と思われた。一方で、グループワークの行い方、(前の席が空いてしまったため)座席の指定、アンケートのあり方など、運営面に関してもご意見をいただいたので、今後に生かしていきたい。

本学において、教員・職員が一同に介して同じ目標に向かって共に学ぶという場がありませんので、FD・SD合同研修会は貴重な機会だと感じている。一方で、研修を行っても、それが今後どのように生かされていくのか、学園としてどのようなヴィジョンをもって進められているのかという全体像がよく見えないままとなっていることも事実である。FD・SD研修会だけでそこまで行うのは難しいと思うが、例えば合同教授会の時に、「次研修会に関する事前の資料配布」、「前研修会の振り返り報告」などを持つことによって、少しずつ組織的にも個人的にも意識改革を図っていく必要があると感じた。

II. 各教職員からの感想 [◎:良かった点, △:改善すべき点, □:今後に望むこと]

【教員①】

◎具体的事例に基づいたお話でしたので、大変勉強になった。

◎今年度のシラバス作成にあたり、この研修の内容を活かしていきたい。

◎素晴らしい講師の先生であったため、今年の内容を踏まえて、ぜひ来年も継続して研修を行って頂きたい。

△グループワークの時間がもう少しあれば良かった。

△一緒にテーブルにいた若手職員の方は、かなり書き辛そうであった。

→全体的な内容がFD寄りだったため、SDと合同で行うテーマ設定としては無理があった印象を受けた。

□感想、意見等を集めるのであれば、数値記入のアンケート(5件法等)を作成すると良い。

→manabaでアンケート作成すれば、集計して.csvでDLすることができる。

【教員②】

◎他大学の取組を内部の方から聞ける機会はあまりないので、とても参考になった。

◎観点別の評価方法は学生理解にもつながり、とても良い取組であると感じた。

◎DPとシラバスを結びつける作成法は大変勉強になり、今後のシラバス作成時に役立てたい。

□今回のように本学、教職員の実務に反映できるような研修会を設けていただきたい。

【職員①】

◎矢田貝先生の説明は非常に具体的でわかりやすかった。

△(質問でも出されたが、)大垣女子短期大学の先生方の意識を変えていくのにどんなことが大変であったか、注意すべき点等などの話をもう少しお聞きしたかった。

△研修後に、本学でのシラバス作成の流れについて、少しでも具体的な説明ができるとよかった。

□ITCを活用した本学・他大学の授業の事例について

→ICT: Information and Communication Technology (情報通信技術)

【教員③】

- ◎本学園で取り組んでいる課題に沿ったテーマで大変勉強になった。
- ◎具体的な資料を拝見させて頂き、「建学の精神」からシラバスの改善への繋がりを理解できた。
- ◎矢田貝先生の総合教育センターやその他の膨大な仕事内容には驚いたが、自身は可能なことから取り組む努力をしなければと強く感じた。
- ◎成績評価に関する改善が課題と感じられ、次年度のシラバス作成には、かなり時間を要しそうである。
→幼児教育・保育に関わる実習に向けての授業や、保育者として相応しいかどうかなど、担当教員の主観に評価が左右されない測定可能な指標の難しさを感じた。複数指導、チーム指導の必要性なども含め、様々な改善策を考える機会となった。

【教員④】

- ◎大変参考になる研修会で、もう少し詳しくお話をお伺いしたかった。
- ◎危機感を持って大学改革に取り組んでいる様子が伝わり、本学も学ぶべき点が沢山あると感じた。
- ◎教員寄りの内容であったが、職員の方々にとっても参考になる部分が多くあったと思う。
- ◎学生の一番身近にいる社会人として、我々が学生のモデルになって行動していく必要がある。常にFDを意識していくことが大切であると感じた。

【教員⑤】

- ◎先進的に進められている大学の取り組みの実際を、とても細かに知ることができた。
- ◎何よりも、講師の先生の熱意や誠実な姿勢、そしてがむしゃらにではなくという境地までを、感じ取ることができたことが大変大きかった。
- ◎このような話を伺うと、「素晴らしいのは分かるけれど、本校ではなかなか…」という思いが生まれてしまうこともあるが、今回は、理想に掲げて行すべきことと、実際にまず行っていくことを明確にしてあり、本校での取り組みにも直結するものだと感じました。
- ◎現在、前期の学生アンケートが戻ってきており、また、後期の授業も佳境に入り、来年度に向けて様々省みているところなので、とてもタイムリーにお話が伺うことができ、研修の時期もとてもよかった。
- ◎来年度のシラバスを作成するにあたり、自分が何を学生に伝えたいかではなく、学生がそこから何を得られるのか、という視点をより明確にしながら望まなければと、背筋の伸びる思いである。
- △グループワークが、個々の作業で終わってしまい、グループ全体での検討にまでは至らなかった。
→例えば、「ここからは全体で」と合図をしたり、まとめ役をあらかじめ進行役が設定したり（一番右端の席の方など）と、もう少し進行役が交通整理をするとスムーズに進むのではないかと感じた。
- △講師の先生にお越しいただいての研修にも関わらず、どうしても前の席が空いてしまうのが気になった。
→委員の方がグループにお1人ずつ入ったり、座席を指定するなど、工夫が必要だと感じた。

平成26年度のFD活動を振り返って～授業公開の結果～

■日 時：平成27年3月20日（金）10：50～11：50

■場 所：ラーニング・プラザ

■目的及び内容

平成26年度の岡崎女子大学・岡崎女子短期大学FD委員会では、授業公開WG、授業アンケートWG、FD研修会WGでFD活動を行ってきた。今研修会では、12月に行われた授業公開について、WGからの全体報告、「参観した先生（参観者）」－「参観された先生（授業者）」からの報告、合わせて、今後の授業公開のあり方について検討する。

■内容とスケジュール

（全体の進行：山下委員）

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 挨拶 | 山田 光治 短大FD委員長 |
| 2. 話題①：授業公開全体の結果 | 小野 隆 委員（授業公開WG） |
| 3. 話題②：授業公開の結果 | |
| 授業公開，参観された先生からの報告 | 上田 信道 先生 |
| | 赤羽根有里子 先生 |
| | 鈴木 穂波 先生 |
| 4. 全体討論 | |
| 5. まとめ | 矢藤 誠慈郎 委員 |

5. 授業公開関係

平成26年度は後期の12月のみを授業公開月間として実施した。

関係資料を次頁以降に掲載する。

● 5 - 1 平成 26 年度「授業公開」実施計画

平成 26 年度「授業公開」実施計画

FD 委員会授業公開ワーキンググループ

1. 目的

「授業公開」は、継続的に行うことにより、日常的な授業におけるその内容・方法について教職員をはじめ、その他の人々による情報交換を行い、授業改善に資することを目的として実施する。また、教育内容の充実や教員としての教育力向上を目指す。

2. 実施内容

(1) 実施者

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学教員の全員が原則行う。
常勤・非常勤を問わない。

(2) 参観者

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学教職員、非常勤講師
できるだけ同一科目担当者や同一分野の授業をピアの精神で参観する（事前連絡も行う）。

(3) 実施時期

平成 26 年 12 月
この 1 ヶ月を「授業公開」期間とする。

(4) 実施方法

- ① 実施者は、11 月 28 日(金)までに「授業公開実施届」に実施科目等を記入し、教務課に提出する。その際、「授業公開中」の貼り紙を受け取る。
「授業公開」を行う授業を受けている学生に、実施について伝達する
- ② 11 月 28 日(金)以降、教務課が「授業公開」を実施する担当者と科目を掲示する。
- ③ 参観者は掲示を確認し、参観する科目、日時を決定する。
- ④ 実施者は、「授業公開」実施時、教室の扉に「授業公開中」の紙を貼り、「授業公開」を行う。
- ⑤ 参観者は、授業を参観する際、なるべく前週あるいはメールなどによる事前連絡を行う。
- ⑥ 参観者は、参観後「授業公開コメント用紙」に感想等を記入し、12 月 27 日(土)までに教務課に提出する。
- ⑦ 実施者は、教務課から「授業公開コメント用紙」のコピーを受け取り、その内容を踏まえ、「授業公開自己評価用紙」に改善点等記述する。平成 26 年 1 月 31 日(土)までに教務課に「授業公開自己評価用紙」を提出する。

3. 実施スケジュール

11 月 19 日(水)	合同教授会にてアナウンス 「授業公開実施届」の配布、実施者募集
11 月 28 日(金)	「授業公開実施届」提出締切 「授業公開」実施科目を公開
12 月 1 日(月)～27 日(土)	「授業公開」実施
12 月 27 日(土)	「授業公開コメント用紙」提出締切
1 月 31 日(土)	「授業公開自己評価用紙」提出締切
2 月か 3 月	FD 研修会にて報告

● 5－2 平成26年度授業公開実施について

平成26年11月19日

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学
学長 長柄孝彦

平成26年度「授業公開」実施について

謹啓 秋冷の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

下記の通り、FD活動といたしまして「授業公開」を実施いたしますので、是非ご参観ください。

また、「授業公開」の実施につきましてもお願い致しますので、ご関係の先生方は下記の通り手続きをお願い致します。

今後も本学のFD活動にご協力いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

1. 目的

「授業公開」は、継続的に行うことにより、日常的な授業におけるその内容・方法について教職員をはじめそのほかの人々による情報交換を行い、授業改善に資することを目的として実施する。また、教育内容の充実や教員としての教育力向上を目指す。

2. 実施内容

(1) 公開者

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学教員の全員が原則行う。
ただし非常勤講師の先生方は任意とする。

(2) 参観者

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学教職員、非常勤講師
対象授業を原則90分間、ピアの精神で参観する（事前連絡も行う）。
専任の教員は必ず1回以上、参観する。非常勤講師の方々や職員は任意とする。

(3) 実施時期

平成26年12月
この約1ヵ月を「授業公開」期間とする。

(4) 実施方法

- ① 公開者は、11月28日(金)までに「授業公開実施届」に実施科目や対象授業等を記入し、教務課に提出する。
「授業公開」を行う授業を受けている学生に、実施について伝達する。
- ② 11月28日(金)以降、教務課が「授業公開」を実施する担当者と科目、対象授業を掲示する。
- ③ 参観者は、対象授業内容等の掲示を確認し、参観する科目、日時を決定する。
- ④ 参観者は、授業を参観する際、なるべく前週あるいはメールなどによる事前連絡を行う。
- ⑤ 公開者は、「授業公開」を行い、参観者が参観する。
- ⑥ 参観者は、参観後「授業公開コメント用紙」に感想等を記入し、12月27日(土)までに教務課に提出する。
- ⑦ 公開者は、教務課から「授業公開コメント用紙」のコピーを受け取り、その内容を踏まえ、「授業公開自己評価用紙」に改善点等を記述する。平成26年1月31日(土)までに教務課に「授業公開自己評価用紙」を提出する。

● 5－2 平成26年度授業公開実施について

実施スケジュール

11月19日(水)	合同教授会にてアナウンス 「授業公開実施届」の配布
11月28日(金)	「授業公開実施届」提出締切 「授業公開」実施科目を一覧表にして公開、参観者募集
12月1日(月)～27日(土)	「授業公開」実施
12月27日(土)	「授業公開コメント用紙」提出締切
1月31日(土)	「授業公開自己評価用紙」提出締切
3月20日(金)午前	FD研修会にて報告

● 5 - 3 授業公開コメント用紙

平成26年度 授業公開コメント用紙							
							FD委員会
<p>授業公開は、継続的に行うことにより日常的な授業におけるその内容・方法について教職員をはじめその他の人々による情報交換を行い、授業改善に資することを目的にしています。</p> <p>つきましては、以下の項目についてお答えいただき、教務課までご提出ください。</p> <p>該当箇所にご記入およびチェックをお願いいたします。</p>							
月		日 ()		授業科目		授業担当教員	
<input type="checkbox"/> 1 限 (9:00～10:30)		<input type="checkbox"/> 2 限 (10:40～12:50)		<input type="checkbox"/> 3 限 (13:10～14:40)			
<input type="checkbox"/> 4 限 (14:50～16:20)		<input type="checkbox"/> 5 限 (16:30～18:00)					
<input type="checkbox"/> 教員		<input type="checkbox"/> 職員		<input type="checkbox"/> その他 ()			
<p>1. この授業で良かったと思う点についてご記入ください。</p>							
<p>2. この授業について改善した方が良くと思う点についてご記入ください。</p>							
<p>3. その他、気づいた点があればご記入ください。</p>							
差し支えなければ、ご記入ください。							
所 属							
氏 名							
							ご協力ありがとうございました。

● 5 - 4 授業公開自己評価用紙

平成26年度 授業公開自己評価用紙															
										FD委員会					
<p>授業公開は、継続的に行うことにより、日常的な授業におけるその内容・方法について教職員をはじめ、その他の人々による情報交換を行い、授業改善に資することを目的にしています。</p> <p>つきましては、以下の項目についてお答えいただき、教務課までご提出ください。</p>															
所属学科								教員氏名							
授業科目名								授業形態							
1. 授業公開コメントを参考にしながら、この授業の自己評価についてご記入ください。															
2. 今後の授業運営上の課題とその対策についてご記入ください。															
3. その他、何か気付いた点について、ご自由にご記入ください。															

● 5 - 5 授業公開実施結果

平成26年度「授業公開」実施結果						
					FD委員会授業公開ワーキンググループ	
実施時期：平成26年12月（1か月間）						
	日付	時限	授業科目名	授業形態	公開者	参観者
1	12月2日	3	教育制度・政策論	講義	中村	白垣
2	12月9日	3	児童文化演習Ⅱ	演習	赤羽根	鈴木（穂）
3	12月9日	3	経営実務演習Ⅰ	演習	河合・町田	市原
4	12月9日	4	相談援助	演習	権	中村
5	12月10日	1	児童文化演習Ⅱ	演習	上田	鈴木（穂）
6	12月10日	1	幼児造形Ⅰ	演習	横田	山下
7	12月11日	5	高齢社会と福祉	講義	仲田	吉村
8	12月11日	4	簿記検定講座Ⅱ	演習	河合	町田
9	12月11日	4	乳児保育Ⅱ	演習	鈴木（方）	岸本
10	12月11日	3	基礎音楽Ⅳ	演習	原田	小川
11	12月12日	2	乳児保育Ⅱ	演習	鈴木（文）	鈴木（方）
12	12月15日	2	幼児造形Ⅰ	演習	米窪	佐善
13	12月15日	2	教育実習Ⅰ事前指導	実習	鈴木（方）	大岩
14	12月15日	1	幼児音楽Ⅱ	演習	平尾・小野・原田	妹尾
15	12月16日	2	秘書実務Ⅰ	演習	笹瀬	山田（光）
16	12月16日	4	基礎音楽Ⅱ	演習	妹尾・滝沢	山田（悠）
17	12月16日	4	保育表現演習	演習	鳥居	横田
18	12月17日	1	コミュニケーション演習	演習	岡本	矢藤・小野
19	12月17日	2	コミュニケーション演習	演習	岡本	小宮・小野
20	12月17日	1	CADオペレーションⅠ	演習	町田	河合
21	12月17日	1	幼児造形Ⅰ	演習	横田	米窪
22	12月18日	3	保育内容演習言葉Ⅱ	演習	赤羽根	上田
23	12月18日	5	児童文学	講義	鈴木（穂）	加藤
24	12月18日	5	児童文学	講義	鈴木（穂）	未記入
25	12月18日	2	文書表現法	講義	上田	赤羽根
26	12月18日	2	幼児造形Ⅰ	演習	横田	滝沢
27	12月22日	3	幼児音楽Ⅱ	演習	妹尾・小野	平尾
28	12月22日	5	指導法の研究	講義	岸本	鈴木（文）
29	12月23日	4	相談援助	演習	権	梅下
30	12月24日	1	社会的養護内容	演習	吉村	戸田
31	12月25日	4	相談援助	演習	吉村	仲田
32	12月25日	1	保育課程論	講義	大岩	鈴木（恒）
33	12月26日	4	障害児保育Ⅱ	演習	梅下	権
34	1月14日	2	相談援助	演習	権	小原
35	1月15日	4	簿記検定講座Ⅱ	演習	河合	黒野

6. おわりに ～FD活動の今年度の総括と次年度の課題について～

FD委員会

本学では、大学・短大それぞれの建学の精神に則り全学の3つのポリシーを定め、効果的かつ実質的な教育・研究活動及び地域貢献活動に繋げるため、教育等に関する様々なデータを分析し、教育・研究内容及び教育方法の改善・向上を図るFD委員会を設置している。FD委員会において企画した学内外の講師による「研修会」を行っている。また、「授業公開」、「授業アンケート」の実施とともに各教員が自己点検・評価することで、教育研究活動を一層向上させるよう努めている。

FD委員会は、大学と短大の合同組織であり、副学長、学部長、事務局長、教職員で構成されており、自己点検・評価委員会、教務委員会、その他関係部署との連携のもと、全学で教育目的の達成のために情報の共有や業務の連携を図っている。また、FD委員会の主導により、「授業アンケート」「授業公開」「FD研修会」を実施し、教育改善に取り組んでいる。詳細は、以下のとおりである。

学生による「授業アンケート」は、前期、後期ともに授業の13～15週の期間中に、すべての科目を対象として実施した（但し、ゼミ及び受講生10名未満の科目は除く）。アンケートは、20項目の質問（5段階のリッカートスケール）と授業に関する感想や意見の自由記述となっている。なお、平成26年度に授業アンケートの内容の改善を図り、当年度後期より新しい内容で実施した。設問項目は、①学生自身について、②授業について、③授業方法、教員について、④教育効果について、を下位領域とする19項目であり、自由記述として①授業で良かったと思う点、②改善した方が良いと思う点、③教室・校舎等の環境改善への要望、となっている。専任教員の担当授業におけるアンケート実施度は高く、ほぼ全員が実施している。学期の終了後、集計結果データが授業担当教員に返却され、各教員が「授業アンケートの結果報告及び自己点検報告書」を作成し、教務課に提出する。当報告書には、①授業アンケートによる自己点検結果、②授業アンケートの結果で優れていた点、③授業アンケートの結果で改善すべき点を記入事項とし、各教員が教育目的の達成状況を自己点検するとともに、今後の授業改善方法の検討に活かしている。また、FD委員会において、実施状況や結果が報告され、大学全体としての課題や改善点について検討し、FD研修会や授業改善のための勉強会のテーマとしてつなげている。

「授業公開」の実施期間は、12月中の1か月間としている。平成25年度は任意実施であったが、平成26年度から常勤・非常勤を含めて原則全員実施へと強化している。授業公開は、継続的に行うことにより、日常的な授業におけるその内容・方法について教職員をはじめ、その他の人々による情報交換を行い、授業改善に資することを目的として実施している。また、教育内容の充実や教員としての教育力向上を目指すねらいもある。実施者は、事前に「授業公開実施届」を教務課に提出し、受講する学生にも事前に伝達する。参観者は、

● 6 - 1 F D活動の今年度の総括と次年度の課題について

実施者に参観希望を事前に連絡し、参観後は「授業公開コメント用紙」に意見や感想等を記入し、教務課に提出する。実施者は、教務課から上記のコメント用紙を受け取り、その内容をふまえ「授業公開自己評価用紙」に改善点等を記述し、教務課に提出する。このような取り組みを通して、各教員が自らの授業を公開し、中立的・客観的にピアレビューを受けることにより、授業運営の改善に活かしている。

「FD研修会」について今年度は新たに職員対象のSD委員会とも連携し、教職員両方が対象の研修会の形で実施することを試みている。建学の精神から3ポリシー、カリキュラムから教育内容・方法及び学修指導等の改善につながる構造の共通理解をもとに、各科目の授業内容の検証を授業アンケートから、学生生活全般の検証を学生満足度アンケートから行うことが可能となるので、今後はIRを設置するなどして、調査結果の分析・評価を各学科や関係部署に伝達し、授業運営や学修環境、学生の理解度等の具体的な課題を共有し解決していく体制づくりの必要性を確認しあっている。

上記の「授業アンケート」「授業公開」「FD研修会」の実施については、FD委員会の中のワーキンググループが中心となって企画し、FD委員会での検討を得て教授会、学部・学科会議で周知され全学的に実施されている。また、実施された取り組みの結果は、授業担当者及び関係部署に適宜フィードバックされ、情報の共有化とともに共通認識の醸成を図っている。また、FD委員会を中心に、関係部署との連携体制のもと課題の解決に向けて継続的に検証していく。

以上の様なこれまでのFD活動を踏まえ、新たな平成26年度の活動成果として追記すると、①FD活動強化のため、委員会をほぼ1ヶ月に1回開催したこと（平成25年度は委員会6回開催、平成26年度は10回開催）、②「授業アンケート」の結果を学修支援センターで開示し、学生をはじめ誰でも閲覧できる状態となっていること、③教務委員会と連携して、平成27年度シラバスの表記一部変更に対し「FD研修会」を実施して混乱なく対応したことが挙げられる。

次年度の課題としては、継続的に教育・研究内容及び教育方法の改善・向上を図るため、FD委員会として「授業アンケート」結果の詳細な分析に基づく考察を行い、現状の把握とともに今後のFDに関する取り組みに活かすための情報を整理し、授業内容や授業を取り巻く環境等の有効な改善策につなげていくことである。このことを意識し、授業アンケート研究会や小規模の教員座談会のようなFD勉強会を催すことが具体案として挙げられる。また、モニター学生等を組織し学生達からの直接的なインタビューによる調査を行う体制作りが必要である。さらには「授業公開」のシステムを見直し、より活発な授業の相互参観を促し、教育方法の共有とそこからの学びにつなげる「FD研修会」を実施したり、豊富なデータに基づくエビデンスの共有が可能な「FD活動・研究報告書」を作成したり、その報告書のより効果的な開示方法を検討したりすることが求められる。

これらのミッションを確実に継続実施することで、大きな効果を上げられると考えるが、さらに今後のビジョンとして、学修成果の可視化⇒履修カルテや学生ポートフォリオのデ

● 6－1 F D活動の今年度の総括と次年度の課題について

デジタル化と集約・分析・共有・指導、アクティブ・ラーニングの推進⇒一斉講義形式授業のグループワーク演習形式授業への再構築と教室環境の整備、教職員協働による発達障害傾向や学力不足の学生への組織的対応⇒初年次教育の見直しやチューター制度の導入などといった取り組みを積極的に取り入れ推進する体制づくりが望まれよう。

平成26年度F D委員会

大学 小宮富子 矢藤誠慈郎 小野隆 白垣潤

短大 山田光治 鈴木恒一 中村治人 町田由徳

事務局 永井量基 片岡寿和 神谷雅樹

7. 研究資料

● 7-1 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学におけるFDの展望について

【研究資料】

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学におけるFDの展望について

白垣 潤

要旨

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学における今後のFDについて、定義、内容および岡崎女子大学設置の趣旨をもとに展望した。

Abstract

The purpose of this study was to have a view about FD in Okazaki Women's University and Okazaki Women's Junior College.

はじめに

FD（あるいはSD=Faculty development/staff development の翻訳概念）は知識＝専門分野を素材に成り立つ学問の府としての大学制度の理念・目的・役割を実現するために必要な「教授団の資質改善」または「教授団の資質開発」を意味する、と考えられる（有本、2005）。

歴史的には、「その才能を豊かにし、関心を広げ、能力を改善し、あるいは、その専門職的かつ個人的成長を促進していくこと」（Gaff, 1976）、「授業方法、授業技術および学生の授業評価」（Bergquist and Phillips, 1975）、「トータルな発達」（Crow, Milton, Momaw, O. and O' Connel, 1976）などの定義が挙げられる。

FDは、一般には広義と狭義の解釈が成り立つ。

広義の解釈は以下の通りである。広く研究、教育、社会的サービス、管理運営の各側面の機能の開発であり、それらを包括する組織体と教授職の両方の自己点検・評価を含む（知識を媒介に考える活動の大前提に学習機能の存在する点を見逃せないが、大学教授職を中心に論議する本論では、とくに分析していない。学習を含めた場合には、教員の活動は、学習、研究、教育、社会的サービス、管理運営などとなる。教授-学習過程の学生を対象に入れば、学習を前提にした理論的な構造を考える必要がある（Astin, 1985:有本、1995）。

狭義の解釈は以下の通りである。主に諸機能の中の教育に焦点を合わせる。この場合も知識の性質を反映することは回避できない。すなわち知識の縦軸と横軸への構造分化に対応する。縦軸は組織のティア（tier）に即した教育の段階に対応したFDである。学士課程と大学院課程の分化は、学士、修士、博士段階の教育とそれに呼応したFDを必要とする。横軸は組織のセクション（section）に即した教育の水平分化に対応したFDを必要とする。人文、社会、自然科学、文学、教育学、法学、経済学、理学、工学、医学といった学問分化に即したFDが可能である。専門分野毎の学問は相応の教育の文化、規範、風土、内容、方法などを形成し、固有のFDを要請する。各学問分野は研究の論理によって細分化するので、個別の教育と同時にそれを統合する教育が欠かせない。

教育に関するFDは、総論的には教育の規範構造、内容（専門教育と教養教育）、カリキュラム、技術などに関する教授団の資質の改善を意味する（有本、2005）。

本研究の目的は、先行研究をもとに、本学が今後取り組むべきFDについて展望することである。

FDの内容

その主たる概念は大学教授職の資質開発である（有本、2005）。

● 7-1 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学におけるFDの展望について

ただし、「質的転換答申（平成24年）」では、以下のよう記してある。

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催等を挙げることができる。なお、大学設置基準等においては、こうした意味でのFDの実施を各大学に求めているが、単に授業内容・方法の改善のための研修に限らず、広く教育の改善、更には研究活動、社会貢献、管理運営に関わる教員職の職能開発の活動全般を指すものとしてFDの語を用いる場合もある。FDの問題として、まず第1にあげなければならないのは、教員の授業改善や教育方法の改善を意味する概念として使われてきたことである（羽田、2014）。

ここでは大きく、(1)授業に関するもの、(2)授業以外に関するものについて整理していく。

(1) 授業に関するもの

- ・使命・目標の再定義
- ・教育研究に関する計画、システム全体の再計画
- ・組織体の改革（学長のリーダーシップの下、全学的な教学マネジメントの確立、実効性のあるガバナンスと財政基盤講座、研究室、学科など組織体、チームティーチング、客員講師、学科間授業、モニター制、授業参観、ポートフォリオ、ティーチングポートフォリオ）
- ・アセスメント・ポリシー
- ・授業と専門職の開発のための機関内センター
- ・機関間共同、プログラム
- ・カリキュラム（専門分野内および専門分野間のカリキュラム改革）・セメスター制
- ・チュートリアル教育
- ・ティーチングアシスタント制
- ・教育方法
- ・マルチメディアの効果的な活用
- ・動機付け
- ・アクティブ・ラーニング※
- ・サービス・ラーニング
- ・学修時間
- ・能力別クラス
- ・休講に対する処置
- ・技術訓練（授業科目、マイクロティーチング）
- ・学科全体の実際の支援、技術的援助、コンピューター、図書館、研究、授業、助手、スタッフ整備
- ・教育過程（学科のプログラムと過程に関する評価）
- ・シラバス
- ・授業科目再計画
- ・第二専門分野の学習
- ・授業、研究あるいはカリキュラムに関しての専門家への相談
- ・大学以外の教育施設等における学修に対する単位認定制度
- ・単位互換制度
- ・初年次教育の実践（レポート・論文などの文章技法、コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術、プレゼンテーションやディスカッションなどの口頭発表の技法、学問や大学教育全般に対する動機付け、論理的思考や問題発見・解決能力の向上、図書館の利用・文献検索の方法 など）
- ・補習教育
- ・教養教育
- ・学部教育
- ・オフィスアワー
- ・正課教育外の指導・相談等
- ・学習環境の整備
- ・専門教育の見直し
- ・単位制度
- ・GPA 制（成績評価、成績評価基準の明示と厳格な成績評価の実施）
- ・ルーブリック
- ・CAP 制
- ・学生の授業評価
- ・授業参観（ピアレビュー）
- ・出口の到達目標の実現
- ・品質管理
- ・質的保証（卒業時の質等）
- ・教員評価（上司が人事考課のために行う「形式的評価」よりも同僚がモニター制によって相互評価し合う「形成的評価」を中心に発展が期待される）
- ・研修 初任者研修、現任者のOJT

● 7-1 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学におけるFDの展望について

- ・寄贈講座、教授職
- ・非常勤講師や実務家教員への依存度が高まる一方職能開発不十分
- ・高大連携
- ・就職指導との連携
- ・インターンシップでのキャリアアップ
- ・社会との連携・交流や国際交流の推進
- ・秋季（9月）入学の拡大等

(1) 授業以外に関するもの

① 研究

- ・学会等参加
- ・個人研究
- ・論文投稿
- ・共同研究
- ・外部研究経費
- ・学内研究経費
- ・委託研究
- ・研究者養成
- ・研究費の獲得
- ・グラントと特別資金
- ・フェローシップ

② 管理運営

- ・基幹的研究の計画
- ・管理者開発
- ・開発機会および機関的ニーズに関する教員およびスタッフの教育
- ・専門家（ファカルティ・ディベロッパー）の養成や確保、活用

③ その他

- ・入試（入学者受入れの方針）
- ・規範の構築（大学が教育に関する的確な規範を保持すべき点検項目リスト）
- ・資質の改善（自己評価機能、研究機能、教育機能、社会的サービス機能、教員人事の適正化、管理運営機能、ライフコース、キャリアカウンセリング、人生設計）
- ・学識の再考（「四つの学識」（発見、統合、応用、教育））
- ・報償システム（教員の処遇、報償システムの見直しは、教育規範の見直しとともにきわめて重要な課題であり、FD制度化の実質を左右する度合いが大きい卓越者への機関的報償、

昇任）

- ・教員人事（昇任見込み契約、契約期間）
- ・機関全体の実用的支援（図書館、託児、駐車場）
- ・研究休暇と休暇
- ・再訓練
- ・専門職的な会議、組織、会合、旅行、ネットワーク化
- ・自己学習（教材、メディア、学習室）
- ・セミナー、シンポジウム、フォーラム、昼食会
- ・ワークショップ（学内、短期）
- ・客員研究員
- ・教員のコンサルタント活動（外部）
- ・コンサルタント以外の専門職的活動（専門職的雑誌の編集、プログラムの委員長やグラントの審査員）
- ・教員交流
- ・学生と教員の同業者主義の強化

岡崎女子大学における大学設置の趣旨

平成 24 年 4 月に開学するにあたって作製された大学設置の趣旨においてはFDに関することについても明記されている。ここでは抜粋して記載する。

岡崎女子大学は、平成 17 年の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」で示された大学機能のうち「幅広い職業人の養成」を担う大学として、資質の高い保育・教育分野の人材養成への社会的要請に応えるものである。（p 2）

14 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組（p 59）

14.1 授業内容・方法の改善のための体制

教員の資質の維持向上と授業内容・方法の改善を図るため、学長が指名する委員によってファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「FD委員会」という）をおき、FDの推進に係る次の業務を企画、立案、調整し、実施するものとする。

①FDに関する調査研究（他大学の情報の収集を含む）を実施する。

②全学生を対象にしたアンケート形式の「学生による授業評価」の実施、学年別に設けたモニター学生の意見や要望を聴取する「授業懇談会」の実施を通

● 7-1 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学におけるFDの展望について

して、授業内容の改善と向上を図る。担当教員は、学生から寄せられた意見を可能な限り当該授業での授業改善に活用し、授業終了段階には評価された点や今後の改善点などについて「授業評価に関する報告書」を提出するものとする。

③シラバスの内容及び公開の方法の検討を通して、教育内容の改善と向上を図る。また、教室や教育機器の整備に関する検討を通して、教育環境の改善と向上を図る。

④教員相互による「授業公開」及び「授業実践発表会」の実施を通して、教育技法の改善と向上を図る。

⑤「教員座談会」及び「外部講師による講演会」の実施を通して、教育内容の改善と向上及び教育職員の資質開発を図る。

なお、FD委員会は、②の「学生による授業評価」「授業懇談会」「授業評価に関する報告書」などを取りまとめ、学内向けホームページに掲載する。また、④⑤の「授業公開」「授業実践発表会」「教員座談会」「外部講師による講演会」の内容などを取りまとめ、「FD報告書」を作成する。「FD報告書」は学内に配布し、教員間の知識と経験の共有化と蓄積を図る。

14.2 教員相互の授業見学

教員は授業内容や方法の改善のため、相互に授業見学を実施する。授業見学はFD委員会が定める手順に従って行われ、見学した教員は、授業内容・方法の参考点などに関する報告書を提出する。また、授業見学の成果について研修会等において共有をはかる。

14.3 授業評価

学生の授業に対するニーズを定性的・定量的に把握し、各教員が自己の授業の質向上の参考とすることを目的とし、以下の授業評価を実施する。

1) モニター調査

学年別にモニター学生を設け、授業に関するモニター学生の意見や要望を学部長等が聴き、改善活動に反映させるための参考とする。

2) 学生による授業アンケート評価

各教員の授業に対する「学生による授業評価」をアンケート形式で実施する。授業評価は授業期間の中間段階で実施し、結果を各教員へフィードバック

する。教員はアンケート結果を受け、できる限り当該授業での授業改善に活用し、授業期間の終了段階に、評価された点や今後の改善点などに関する報告書を提出する。学生アンケートの結果と教員による報告書は学内向けホームページにて公表される。

14.4 研修会

日常の教育活動をテーマに議論し授業の改善策を考える「教員座談会」、相互の授業実践を紹介し工夫点などの共有化を図る「授業実践発表会」、「外部講師による講演会」などの研修会を設ける他、座談会や発表内容を報告書にまとめて、学内に配布し、教員間の知識の共有化と蓄積を図る。

15.2 学習意欲の低下等への対応

学習意欲や学業継続意欲の低下が懸念される学生については、早めに危険信号を察知する体制をとる。同一授業の中で半期に欠席が3回生じた学生については、各授業担当者から学生支援課に連絡を行い、学生支援課から等が医学生の指導担当教員（クラス担当・専門ゼミナール担当教員）に連絡を入れる。複数の授業で欠席が目立つ学生については、指導担当教員が個人指導を行い、体調や学習意欲、生活面などで問題が生じてないかを確認し、早期の支援を心がける。休学や退学を希望する学生については、指導担当教員が相談に応じ、学生本人の人生設計に最も望ましいと思われる選択に配慮し、助言を行う。

考察

岡崎女子大学・岡崎女子短期大学においては、他大学と同様、今後FDを進めていかなければ大学の将来はないと思われる。しかし、このFDは決して国の要求があるからやらなければならないことではなく、積極的に活用していくことで、やりようによっては大学の発展にもつながるツールである。この地域の大学、あるいは保育者養成校をリードしていけるFDが展開されていくことを期待したい。

参考文献

青山吉隆(1995) 学生と共感の意識ギャップ-徳島大学工学部の場合-。IDE。368。

有本章(2005) 大学教授職とFD。東信堂

有本章・北垣郁雄(2006) 大学力 真の大学改革の

● 7-1 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学におけるFDの展望について

ために、ミネルヴァ書房

Bergquist, W.H., and Phillips, S.R., (1975) A Handbook for Faculty Development, Vol.1., Council for the Advancement of Small Colleges.

Crow, M.L., Milton, O., Moomaw, W.E., and O' Connel, W.R., Jr., eds., (1978) Faculty Development Centers in Southern Universities, Atlanta: Southern Regional Education Board.

Gaff, J.G., (1976) Toward Faculty Renewal: Advances in Faculty, Instructional, and Organizational Development, Jossey-Bass.

羽田貴史 (2014) FDの反省と課題. IDE 現代の高等教育、559、4-10.

川上忠雄・内田勝一・寺崎昌男・舘昭・白石和夫・針持和郎・岩田貢・山本浩嗣・藤井亀・安岡高志・村田宏雄・古庄高・中島国彦・小川孔輔・釜田泰介・廣瀬克哉・楠原彰・井上理 (2001) 大学の教育・授業の未来像-多様化するFD-. 社団法人日本私立大学連盟

小倉芳彦・釜田泰介・原一雄・絹川正吉・楠原彰・安岡高志・山本浩・大坂敏明・永松京子・松岡信之・栗田充治 (1999) 大学の教育・授業をどうする-FDのすすめ-. 社団法人日本私立大学連盟

澤昭裕・寺澤達也・井上悟志 (2005) 競争に勝つ大学-科学技術システムの再構築に向けて. 東洋経済
清水一彦 (1999) 平成の大学改革を斬る. 協同出版
宇留間和基 (2003) 大学改革がわかる. アエラムック

宇佐美寛 (2004) 大学授業の病理-FD批判-. 東信堂

矢野眞和 (2005) 大学改革の海図. 玉川大学出版部
参考資料

21 世紀の大学像と今後の改革方策について-競争的環境の中で個性が輝く大学- (答申) (平成 10 年 10 月 26 日 大学審議会)

我が国の高等教育の将来像 (答申) (平成 17 年 1 月 28 日 中央教育審議会)

学士課程教育の構築に向けて (答申) (平成 20 年 12 月 24 日、中央教育審議会)

新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて~生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ~ (答申) (平成24年8月28日、中央教育審議会)

用語集

ティア (tier) : 段、段階、層

アセスメントポリシー

学生の学修成果の評価(アセスメント)について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めた学内の方針。英国では、高等教育質保証機構(QAA: Quality Assurance Agency for Higher Education)が中心となって質保証に関する規範(※)を策定し、各大学が満たすべきアセスメントの質的水準や手法などについて規定している。各大学では、これを踏まえて学内の方針を定めている。

※「英国高等教育のための質規範」(UK Quality Code for Higher Education)。2011年に同規範が策定される前は、「高等教育の質及び水準保証のための実施規範」(Code of practice for the assurance of academic quality and standards in higher education)が同様の役割を担っていた。

アクティブ・ラーニング

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学習者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

サービス・ラーニング

教育の一環として、一定の期間、地域のニーズ等を踏まえた社会奉仕活動を体験することによって、それまで知識として学んできたことを実際のサービス体験に活かし、また実際のサービス体験から自分の学問的取組や進路について新たな視野を得る教育プログラム。

サービス・ラーニングの導入は、①専門教育を通

● 7-1 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学におけるFDの展望について

に活用できる知識・技能への変化、②将来の職業について考える機会の付与、③自らの社会的役割を意識することによる、市民として必要な資質・能力の向上、などの効果が期待できる。

GPA (Grade Point Average)

各科目の成績から特定の方式によって算出された学生の成績評価値のこと、あるいはその成績評価方式のことをいう。欧米の大学や高校などで一般的に使われており、留学の際など学力を測る指標となる。日本においても、成績評価指標として導入する大学が増えてきている。主成分分析を援用した指標である (Wikipedia)。

ルーブリック

米国で開発された学習評価の基準の作成方法であり、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される。記述により達成水準等が明確化されることにより、他の手段では困難な、パフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがある。

コースや授業科目、課題 (レポート) などの単位で設定することができる。

国内においても、個別の授業科目における成績評価等で活用されているが、それに留まらず組織や機関のパフォーマンスを評価する手段とすることもでき、米国 AAU&U (Association of American Colleges & Universities) では複数機関間で共通に活用することが可能な指標の開発が進められている。

CAP制

単位の過剰登録を防ぐため、1年間あるいは1学期間に履修登録できる単位の上限を設ける制度。

我が国の大学制度は単位制度を基本としているが、大学設置基準上1単位は、教員が教室等で授業を行う時間に加え、学生が予習や復習など教室外において学修する時間の合計で、標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成されている。また、これを基礎とし、授業機関は1学年間におよそ30週、1学年間で約30単位を修得することを基本として制度設計されている。

しかしながら、学期末の試験結果のみで単位認定が行われるなどの理由から、学生が過剰な単位登録をして、3年で安易に124近くの単位を修得し、結果として45時間相当に満たない学修量で単位が認定されているという現象が生じたことから、平成11年に、大学設置基準第27条の2第1項として、「大学は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるよう努めなければならない」と規定された。(質的転換答申、平成24年)

大学などの高等教育機関における**キャップ制**は、学習者の卒業条件となる単位取得について、一定の制限を加える制度を意味する。この制度が適用された場合、一定期間 (半年・一年など) 内で同時に申請できる授業の数が制限され、学習者の能力を超えた過剰な授業申請をしたり、選択必修の枠にある講義を保険として申請したりすることを防止することができる。

この制度は、いくつかの大学・学部で設けられており、大学改革のためにこの制度を設けた大学は年々増加傾向にある。なお、大同工業大学のように、大学改革の一環として明確に位置づけているところもあるが、キャップ制という言葉を用いずに、授業申請において履修に制限が設けられている場合もある (Wikipedia)。

OJT

職場の上司や先輩が部下や後輩に対し具体的な仕事を通じて仕事に必要な知識・技術・技能・態度などを**意図的・計画的・継続的**に指導し、修得させることによって全体的な業務処理能力や力量を育成するすべての活動である。これに対し、職場を離れての訓練は**Off-JT** (Off the Job Training) と呼ばれる。

【研究資料】

学修と学習について

Different between learning and studying

白垣 潤

要旨

岡崎女子大学設置に伴い、また文部科学省で昨今「学修」という用語を使用していることから、学修と学習の違いについて整理した。

Abstract

The purpose of this study was to reveal different between learning and studying. Cause we used the word “learning” when Okazaki Women’s University opened and recently government is using the word “learning” not “studying”.

【はじめに】

平成24年度に岡崎女子大学が設置認可された。その際に設置認可申請書などにも盛り込まれた「学修」という用語であるが、設置に当たり、「学修支援センター」などの施設名称にも盛り込まれているが、その後の用語の運用については不明確な部分も多い。ホームページや大学パンフレット作成の際に「学修」が適切なのか「学習」が適切なのか迷うところも多いのである。

そこで、本稿では、「学修」と「学習」について整理した。なお、本来は学問的背景まで俯瞰すべきであるが、今回は文部科学省の報告書及び答申に限定してレビューし、本学園の用語使用の方向性を探っていくことのみとした。

【学修の辞書的意味】

学修とは、学問をまなび身に付けることである（大辞泉）。大学生活を通じて教育課程を確実に修める（身につける）という意味が込められていて、文部科学省も使用している用語である。

【文部科学省（文部省含む）における「学修」という用語の使用について】

平成三年の大学設置基準改正を受けて「学修」という文言を使用開始したものと考えられる。実際の使用は以下の通りである。

大学設置基準第二十九条第一項の規定による大学が単位を与えることのできる学修（平成三年文部省告示第六十八号）（平成3年6月5日）

短期大学設置基準第十五条第一項の規程による短期大学が単位を与えることのできる学修（平成三年文部省告示第六十九号）（平成3年6月5日）

その後、平成10年に以下の告示において使用が見られる。

学校教育法施行規則第六十三条の四の規定に基づく別に定める学修等（平成十年文部省告示第四十一号）（平成10年3月27日）

その後、平成10年から平成21年の間に「学習」と「学修」の使い分けが進行してきたことが伺える。

中長期的な大学教育の在り方に関する第二次報告（平成21年8月26日）
学生支援・学習環境整備については、既に、公的な質保証システムの観点からの検討課題を示したが、ここではその他の観点として、学生相談、学修支援、経済的支援について、現時点までの審議経過を整理した。

中央教育審議会大学分科会大学教育部会（第10回）平成24年2月22日

● 7-2 学修と学習について

学修の系統性・順次性が配慮されていないとの指摘

学生の学習時間が短く、授業外を含めて45時間の学修を1単位とする考え方が徹底されていない

そして、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）（平成24年8月28日）」で用語の使用を明確化している。

具体的には、「学習」を「学修」へ変更し、答申では一貫して「学修」という表現に変わっている。大学設置基準上、大学での学びは「学修」としている。大学での学びの本質は、講義、演習、実験、実技等の授業時間とともに、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間を内在した「単位制」により形成されている。「能動的学修」と言った場合、学生の学習時間の確保は教員にも責任がある。これまで、「学習」は学生がするもの、「授業」は教員がするものとの考えがあった。そのため、教員は「15回」の授業回数を、学生は「出席」回数を問題にする傾向があった。しかし、大学設置基準上では、「15回」ではなく、「15週」となっている。「15回」と「15週」では内容に大きな違いがある。回数を増やすだけでは、質的転換には繋がらない。「15週」と言った場合、一週間の講義と予習復習を含むもので、まさしく「学修」のことである。「学修」には、教員と学生が一緒に授業を創る工夫や改善を促すファカルティ・ディベロップメントが不可欠である。学生に向かって「学修時間を増やさない」と呼びかけることだけでは実現しない。学生の学修時間の増加・確保には、学生の主体的な学修を促す教育内容と方法の工夫が不可欠である。

その後は一貫して「学修」という用語となっている。

例えば、「学修環境充実のための学術情報基盤について（審議まとめ案）（平成25年6月14日）」においては、「自主的な学修」となっている。また、「学習環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）（平成25年8月21日）」においては、「学修環境充実」、「能動的学修（アクティブ・ラーニング）」、「学修環境整備」、「学生の主体的学修」となっている。

背景には、我が国の大学生は、学習時間が少なく、特に授業の出席率が高いが授業外の学修時間は極めて少ない。また、授業への出席よりも参加型の授業や授業外における自主的な学修の方が学

生の多面的な能力形成に影響力が大きいという調査研究結果に因るものと思われる。

また、「学修環境の充実に資する学術情報基盤整備の在り方」においては「学習空間」については、多様な学習活動に対応可能な空間を用意するとともに各空間の開放性、透明性を高くすることが重要。「見る」「見られる」という空間の中で、学生の互いの学習意欲を刺激し、さらに、教員の教育姿勢に対しても好影響を与える、となっており、岡崎女子大学・岡崎女子短期大学の「学修支援センター」として具現化している。

【考察】

本学園においては、教育課程全体の学びを「学修」、個々の学びは「学習」で統一していくと良いのではないかと。そうすると、アクティブラーニングも自律的学習で十分であるし、説明もシンプルになると考えられる。なお、文脈によっては「学習」という用語を使うとよいのではないだろうか。